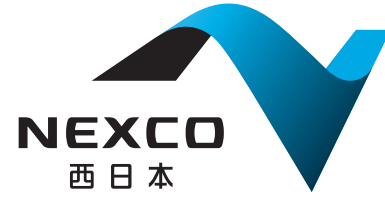


みち、ひと…未来へ。



ブランドネーム：NEXCO(ネクスコ)西日本

会社の英語表記「West Nippon Expressway Company Limited」の頭文字の一部からとりました。このブランドネームは、同時に、私たちの姿勢や熱意を示した“みち”とともに、“みち”の先へを表す「Next(次なる)」と、「Co(「共に」を表す接頭語)」の2つの語を包含しています。

ロゴマーク

NEXCOの頭文字「N」を3次元的に造形することによって、未来へと続く高速道路のダイナミズムを表すと同時に、「道进行くこと」がもたらしてくれる心の躍動感を表しています。また、組み合わせるロゴタイプは、丸みと広がりを持たせたポールド書体によって、ゆとりのある道路空間を表現するとともに、高速移動中でも高い視認性を実現しています。

ブランドカラー「ネクスコ・ブルー」

西日本・南日本の海と空の明るさをイメージした、鮮やかで清澄感のある青色です。

企業情報



道路交通情報



SA・PA情報



観光情報



お問い合わせ先

西日本高速道路株式会社 経営企画部 CSR推進課
 TEL(06)6344-4000(代表) FAX(06)6344-7183
 インターネットからのお問い合わせ：
 NEXCO西日本ウェブサイト(<https://www.w-nexco.co.jp>)から、[お問い合わせ]ページへアクセスできます。





みち、ひと・・・未来へ。

高速道路に変わらぬ安全と、これまでにない感動を。
地域を愛し、地域とともに生きる。
たゆまぬ技術の革新で、100年先の未来へ。

NEXCO西日本グループレポート編集方針

本レポートは、ステークホルダーの皆さまに、当社グループのCSRに対する考え方や事業を通じた社会の持続的な発展に向けた取り組みを分かりやすくお伝えするとともに、ご意見・ご期待を把握するためのコミュニケーションツールとして作成しています。

- 報告対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日
(上記期間外の情報も一部含まれます)
- 報告対象範囲：NEXCO西日本及びグループ会社
- 発行時期：2024年6月(前回2023年6月、次回予定2025年6月)
- 注 意 事 項：本レポートに掲載されている将来についての計画や事業に関する見直しは、その情報の正確性及び完全性を保証又は約束するものではありません。施策の実施予定や完了時期は、公表時点のものであり、状況により見直すことがあります。また、端数処理の関係により、表等の合計が合わない場合があります。

- 使用する略称
「NEXCO西日本」「当社」：西日本高速道路株式会社
「NEXCO西日本グループ」「当社グループ」：
西日本高速道路株式会社とその子会社及び関連会社を含めたグループ全体
「JCT」：ジャンクション 「IC」：インターチェンジ
「スマートIC」「S」：スマートインターチェンジ
「SA」：サービスエリア 「PA」：パーキングエリア

Contents

- トップメッセージ 3
- グループ理念・CSR活動方針 5
- 私たちについて
 - 事業概要 7
 - 中期経営計画「進化 2025」 9
- 安全・安心
 - 高速道路の保全 13
 - 災害対応力の強化 17
 - 交通安全 19
- ネットワークの強化
 - 新規建設・6車線化 24
 - 4車線化 27
 - スマートIC 29
- 快適に、豊かに
 - 料金・ETC 31
 - SA・PA 33
- 特集
 - 地域づくりのプラットフォーマーを目指して ... 37
- サステナビリティへの基盤
 - 人とともに 40
 - 環境経営の推進 43
 - コーポレート・ガバナンス 47
 - 海外への展開 50
 - 財務情報 51
- データ
 - 会社概要・組織図・グループ会社 53
 - 事業エリア 54
 - NEXCO西日本グループのあゆみ 55
 - CSRの重要課題と取り組み状況 57



松山道 開通20周年

表紙の写真は、2024年3月23日に完成した松山道 東温スマートICで、四国初の環道型退出路を採用しています。本ページの写真は、4車線化事業中の松山道(伊予IC～内子五十崎IC) 双海橋の橋梁上部工工事の様子です。急峻な地形のため、地滑り対策や大規模な仮橋の設置により安全第一に工事を進めています。

時代とともに、進化する



代表取締役社長

荒井 善治

事業を取り巻く経営環境

高速道路を取り巻く経営環境は、時代の流れとともに変化しています。大きな変化の1つ目として、まず、高速道路の新たな更新・進化事業の必要性の高まりがあります。高速道路では、定期点検や点検技術の高度化を踏まえた詳細調査により、更新が必要な箇所が新たに判明しています。また、災害対応力の強化等のための暫定2車線区間の4車線化や耐震補強をはじめ、自動運転や電気自動車(EV)への対応など、社会的要請を満たすための高速道路の機能向上、つまり「進化」が必要となっています。これらを受けて、2023年5月の道路整備特別措置法等の改正により、高速道路の料金徴収期間を最長で2115年まで延長できるようになりました。これは高速道路を健全かつ利便性の高い状態で、将来の世代に引き継いでいくための重要な制度変更です。2024年3月には、料金

徴収期間を延長し、新たな更新・進化事業について国土交通大臣の事業許可を受けました。引き続き、構造物の老朽化、災害の激甚化、社会・経済構造の変化等に対応すべく、最新の技術と知見を取り入れ、迅速かつ計画的に事業を進めてまいります。

2つ目としては、建設業・運送業における時間外労働の上限規制などの実施に伴う、いわゆる「2024年問題」があげられます。建設業については、建設業界の皆さまと意見交換や現地ヒアリングを重ね、下記のとおり4つの柱を取りまとめ、2024年3月に工事管理スリム化ガイド『4-you』と行動宣言を策定しました。引き続き、建設業界の皆さまと連携し、効率化・省力化に取り組むとともに、現在と将来の担い手のために、建設業の働き方改革と工事円滑化を実現してまいります。また、物流業界の皆さまとも連携し、

新規建設・4車線化事業等の推進や、休憩施設の大型車駐車マスの拡充、短時間限定駐車マスの実証実験などの取り組みを進め、物流効率化を目指してまいります。

経営環境の変化としては、もう1つ、コロナ禍の収束があります。交通量は2023年度で概ね回復に至りましたが、人々の移動が活発化し、観光需要等が再び高まったことにより、渋滞対策やオーバーツーリズム対策等の必要性が日に日に増えています。当社グループとしては、ドライブパス(周遊パス)の平日利用の利便性向上や休日割引適用除外日の設定等により、観光振興と観光需要の分散化・平準化の両立に取り組んでまいります。

このように、我が国の生活・経済活動や文化活動を支える重要な社会基盤である高速道路は、刻々と変化する社会に柔軟に対応し、「進化」し続けることで、社会の持続的な発展に貢献し続けることが重要な役割であると考えています。2024年度は、中期経営計画『進化2025』の4年目として、着実に事業を推進し、新たな技術と知見を活用し、当社グループと高速道路の進化をさらに加速させることで、社会インフラとしての使命を果たしてまいります。

DX実装の拡大の年

民営化後最大規模の事業量が継続する中、中期経営計画『進化2025』を着実に推進するため、「経営資源の柔軟かつ最適配分」、「多様な人財の活躍」、「更なる生産性の向上」の3つの柱からなる「進化に挑む重点方針」を基本として、会社全体の業務執行能力の向上に取り組んでいます。生産性向上にあたっては、DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進が不可欠です。当社グループでは、DX戦略を「NEW ACE DXs(先進的な挑戦と進化がDX戦略を推進する)」(※)と定めており、2024年度は「DX実装の拡大の年」として、業務処理の効率化だけでなく、業務・サービスの高度化にもDX対象領域を拡げ、更なる生産性の向上を実現してまいります。

人とともに進む

当社グループにとっての最大の資産は、高速道路を建設・管理するノウハウの集合体である社員そのものです。時代の変化に合わせて高速道路を進化させ、未来を切り拓いていく「人財」を育成することが、当社グループと社員一人ひとりの成長にとって重要と考えています。そのため、多様なライフスタイルに合わせて社員が自らキャリアを選択し、長く働き続けることができる環境整備に取り組んでいます。

地域の新しい魅力づくり

私たちは、多様化する地域課題に対し、地域と連携して地域創生を目指す取り組みとして、「地域共創」活動を行っています。当社グループと地域の自治体や企業が

お互いのリソースを活かし合い、観光・文化・産業などの地域の価値を引き出すことで、持続可能な地域づくりにチャレンジする取り組みです。高速道路の持つ機能やサービス、当社グループが持つノウハウやつながりを活用し、地域の新しい魅力をつくり・発信することで、人と地域をつなげ、観光振興や交流人口を増やすことが可能になると考えています。引き続き、「地域づくりのプラットフォーム」を目指して、地域共創活動に取り組んでまいります。

環境経営の推進

2008年から環境経営を推進しており、「環境基本計画2025」では「脱炭素社会の実現」「循環型社会の形成」「自然と共生する社会の推進」を3つの重要テーマとして定め、事業活動の様々な側面におけるアクションプランを立て、環境負荷の低減に取り組んでいます。また、世界的に気候変動対策の重要性が高まる中、当社グループにおいても、カーボンニュートラルの実現に向けて、円滑な交通確保を通じた二酸化炭素排出量の削減、電気自動車急速充電設備の増設や、道路空間を活用した省エネルギー化等を推進し、2030年度までに温室効果ガス排出量を50%以上削減することを目標として、取り組みを推進しています。

持続可能な社会の実現に向けて

当社グループでは、CSR活動方針を「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」と定めています。高速道路の進化に挑み続けることにより社会インフラの機能を更に高め、我が国の持続的な発展と豊かな未来の実現に貢献することが、NEXCO西日本グループの使命であり、社会的責任であるからです。これは、グループ理念「私たちは、高速道路の安全・安心を最優先に、高速道路の進化に挑み続け、地域の発展と豊かな未来の実現に貢献します」にも共通する精神であり、持続可能な社会の実現に貢献することは、社会インフラを担う者としての責務であると考えています。高速道路の安全・安心の確保、ネットワークの強化、地域との連携、環境経営等、当社グループのあらゆる事業活動を通じて、ESG(環境・社会・ガバナンス)に関する取り組みを推進し、国連が採択した「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に貢献してまいります。

おわりに

これからも、事業活動を通じて、お客さまや、沿道地域の皆さまをはじめとした社会、投資家・国民の皆さま、お取引先、グループ社員等、様々なステークホルダーへの責任を果たすことに努めてまいります。皆さまには、本レポートやNEXCO西日本グループの今後の活動に対して、忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

工事円滑化に向けた4つの柱と主な取り組み — 2024年問題への対応 —

<p>工事管理スリム化ガイド『4-you』</p>	<p>設計図書 品質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 設計成果品に係る照査体制の強化(十分な確認期間を確保し、受発注者間にて照査を実施) 	<p>書類作成の 軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> 提出頻度の多い定型書類を集約化 受発注者双方が発議できる工事変更等検討会を導入し、意思決定を迅速化かつ作成資料の簡素化 	<p>工事管理スリム化ガイド『4-you』</p>
<p>適正な 工期の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 週休2日工事の完全実施(災害復旧を除く全ての工事を週休2日とする) 工事着手前の準備期間及び工事完了後の後片付け期間の十分な確保 	<p>施工管理の 効率化・ 省力化</p> <ul style="list-style-type: none"> 一定の品質基準を満たすコンクリート(配合)であれば各種試験の省略及び提出書類の削減 		

※NEW ACE DXs: 「NEXCO West」の頭文字と「Advanced Challenge and Evolution will drive DX strategy(先進的な挑戦と進化がDX戦略を推進する)」からなる当社グループのDX戦略の略称

高速道路の使命

グループ理念

私たちは、高速道路の安全・安心を最優先に、
高速道路の進化に挑み続け、
地域の発展と豊かな未来の実現に貢献します

高速道路は、人々の生活に深く根差し、永く将来にわたり日本の文化・産業の発展に寄与する重要な社会基盤です。私たちNEXCO西日本グループは、人や物の全国的な交流・流通を支える高速道路事業やSA・PA事業などを通じて、西日本地域の経済の発展と生活の向上に貢献するという使命に応えます。

また、良好な環境の保全・形成や、技術や人材交流を通じた国際社会の発展などに積極的に取り組み、あらゆる面で良き企業市民として、社会的責任 (Corporate Social Responsibility) を全うします。



社会の持続的な発展 — NEXCO西日本グループの成長 —



インフラ企業として、すべきこと

CSR活動方針

事業活動を柱として、
社会の持続的な発展に貢献します

当社グループの最大のCSR (企業の社会的責任) は、事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献することです。具体的には「高速道路の安全・安心の確保と着実な整備」、「SA・PAでのお客さまサービスの提供」であり、それらを着実に実行することが、社会の持続的な発展への貢献、ひいてはグループの成長につながっていくものと考えています。

主な事業活動とSDGs

Environment 環境



- ・脱炭素社会への取り組み
- ・循環型社会の形成
- ・自然と共生する社会の推進



Social 社会



- ・高速道路の整備と長期保全
- ・災害対応力の強化
- ・交通安全の取り組み
- ・新しいモビリティ社会への対応
- ・高速道路を通じた地域貢献



Governance ガバナンス



- ・適切なリスクマネジメント
- ・コンプライアンスの徹底
- ・ダイバーシティの推進
- ・ジェンダー平等の実現
- ・積極的な情報公開
- ・公正な取引関係



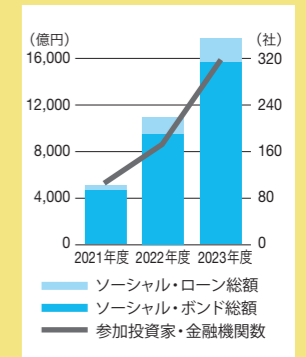
SDGs達成へ貢献 × 資金調達

ソーシャル・ファイナンス



当社が策定したソーシャル・ファイナンス・フレームワーク※が、ICMA (国際資本市場協会) の定めるソーシャルボンド原則に適合している旨の外部評価を、2021年6月から取得しています。

ソーシャル・ファイナンスによって調達した資金により、高速道路の新設・改築等を行うとともに、加速化する道路の老朽化、激甚化・頻発化する自然災害、逆走防止といった安全・安心対策などの事業活動を通じて、SDGsの達成に貢献します。



※当社の高速道路事業 (新設、改築、修繕並びに大規模更新) 等とSDGsとの親和性を4つの視点 (調達資金の用途、プロジェクトの評価及び選定プロセス、調達資金の管理、レポート) から取りまとめた資料

事業概要

当社は、日本道路公団の分割・民営化により2005年10月1日に設立されました。グループ会社とともに、西日本エリアの高速道路の建設や維持管理、SA・PAの運営などを行っています。

事業案内



事業運営の流れ

- 1 高速道路の建設・リニューアル等は、投資家・金融機関から調達した資金を原資に行います。
- 2 完成した高速道路資産は、事業費と同額の債務とともに、高速道路機構に引き渡します。
- 3 当社は、高速道路機構から高速道路資産を借り受け、高速道路の通行料金の収受や維持・管理を行います。
- 4 お客さまから収受した通行料金は、維持・管理及び高速道路機構への道路資産賃借料の支払いの原資となります。
- 5 高速道路機構は、道路資産賃借料を原資として、投資家・金融機関へ債務の返済を行います。
- 6 関連事業(SA・PA事業・その他事業)は、SA・PA事業等の収益を原資に、事業運営を行っています。

※数値は2024年3月末時点

※「高速道路機構」「機構」:(独)日本高速道路保有・債務返済機構

進化2025

経営環境の変化

高速道路	社会
<ul style="list-style-type: none"> ● 高速道路の老朽化の進行 ● 自然災害の激甚化・頻発化 ● CASE※1・MaaS※2の進展 ● 自動運転技術の向上・発展 ● 次世代自動車の普及 等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 5G※3大容量通信サービスの開始 ● AI※4やICT※5等の技術革新の進展 ● 少子高齢化の進行 ● ポストコロナ社会の新しい生活様式の定着 ● SDGs※6の取り組み 等

※1 Connected(コネクテッド)・Autonomous(自動化)・Shared & Service(シェアリング&サービス)・Electric(電動化)
 ※2 Mobility as a Service(サービスとしての「移動」) ※3 第5世代移動通信システム ※4 Artificial Intelligence(人工知能)
 ※5 Information and Communication Technology(情報通信技術) ※6 Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)

将来のありたい姿

新たな時代に即した進化

中期経営計画		5つのビジョン	
<p>01 高速道路の安全・安心をいつまでも守り抜く</p> 	<p>02 多発する自然災害から地域と暮らしを守り抜く</p> 	<p>03 新しいモビリティ社会に向けて高速道路を進化させる</p> 	<p>04 高速道路の顧客体験価値を高める</p> 
<p>05 持続的に進化する企業を目指す</p> 			

中期経営計画「進化2025」

近年の地球温暖化やデジタル技術の急速な進歩により、今後、高速道路に求められる機能や役割が大きく変化していくと考えられます。

当社グループは、経営環境の変化に柔軟に対応する「進化」を遂げることで、

社会から求められる役割や使命を果たすとともに、高速道路の新たな付加価値を生み出し、進化した高速道路サービスを提供していきたいと考えています。

進化2025の詳細はこちら



5つのビジョンを実現するための、重点施策

本レポートにおける関連情報ページ

<p>01 高速道路の安全・安心をいつまでも守り抜く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 点検補修の進化 P.13,14 ● 大規模更新・大規模修繕の推進 P.12,15,16 ● 交通安全対策の進化 P.19-22
<p>02 多発する自然災害から地域と暮らしを守り抜く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ネットワークの進化～ミッシングリンクの解消等～ P.23-26,29 ● ネットワークの強化～暫定2車線区間の4車線化～ P.23,27,28 ● 高速道路の強靱化～耐震性の向上～ P.17 ● 災害対応力の強化 P.12,17,18
<p>03 新しいモビリティ社会に向けて高速道路を進化させる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 高速道路機能の進化 P.24 ● 物流支援～休憩施設の充実～ P.33,34 ● 料金所のキャッシュレス化・タッチレス化 P.30-32 ● 道路情報提供の高度化 ● 通信ネットワークの進化
<p>04 高速道路の顧客体験価値を高める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい価値を提供するSA・PAの進化 P.30,35-38
<p>05 持続的に進化する企業を目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 高速道路を活用した地域貢献 P.34-38 ● 社員が活躍できる環境づくり P.39-42 ● DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進 P.10,13,14 ● 環境に関する取り組みの推進～脱炭素社会に向けて～ P.43-46 ● 海外事業の発展 P.50 ● SDGs達成への貢献 各ページ

DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

道路公団民営化時と比較し約3倍となっている膨大な事業量に対応するため、グループ一丸となって、DXをはじめとした業務効率化・生産性向上を推進し、当社グループの企業価値の最大化を目指します。

DX戦略の詳細はこちら



NEXCO West ACE DXs

Advanced Challenge and Evolution will drive DX strategy.
 先進的な挑戦と進化がDX戦略を推進する

重点施策

① マインド醸成	グループ全社員の意識改革
② 基盤整備	DXに必要な環境整備
③ 人材育成	デジタル知識を活用できる人材の育成
④ 業務処理の効率化	業務効率化と自動化の実現
⑤ 業務・サービスの高度化	高速道路マネジメントの高度化

老朽化や社会・経済構造の変化に対応した迅速かつ計画的な更新・進化事業に向けて

— 料金徴収期間の延長 —

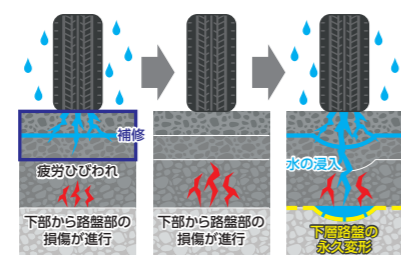
更新

点検技術の高度化を踏まえた詳細調査の結果、著しい変状が確認され、新たな更新事業が必要となっています

詳細調査により判明した、グラウトの充填不足によるPC鋼材の劣化（橋桁）



新たに判明した舗装路盤部の変状メカニズム



地すべり対策をしても変状が収まらない切土のり面（山陽道 木津地区）



橋梁	<ul style="list-style-type: none"> 床版取替 グラウト充填材の再注入 	土工舗装	<ul style="list-style-type: none"> 舗装路盤部の高耐久化 地すべり対策をしても変状が収まらない切土のり面のボックスカルバート化+押え盛土
----	---	------	---

進化

社会・経済構造の変化などにより生じた社会的要請を満たすための機能向上が不可欠です

暫定2車線区間の4車線化/耐震補強/SA・PAの利便性向上 等



短時間限定駐車マスの実証実験



工事規制・通行止め情報

ウェブサイト

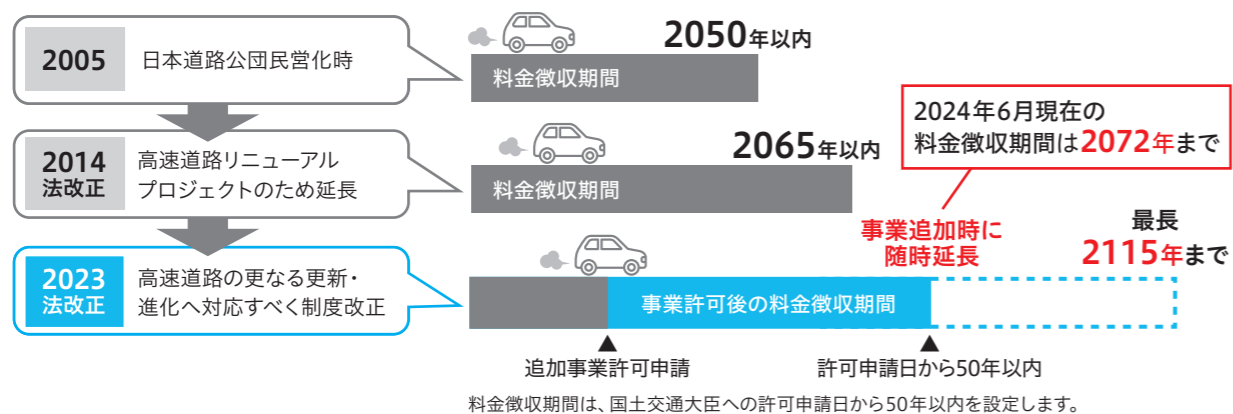
中国道 宝塚IC ランプ橋（小浜橋）のリニューアル工事。多軸台車とジャッキアップ設備を用いた橋梁の一括撤去・架設により、高圧電線下での架替及び交通規制日数の削減を実現。

安全・安心

社会インフラとしての責任を自覚し、安全・安心を最優先に、事業を行っています

高速道路の更新・進化を実施するために、2023年5月、道路整備特別措置法及び独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構法が改正されました

今後は、更新・進化事業の追加にあたり、料金徴収期間を延長



リアルタイム交通情報

スマホアプリ

ウェブサイト

X

2023年7月10日の大雨により土石流被害を受けた大分道（朝倉IC～杷木IC）高山トンネル東坑口。反対側の西坑口も土石流の被害を受けるも、5日後には対面通行規制により通行止めを解除。

高速道路の保全



今も、将来にも、100%の安全・安心を

正確かつ迅速に、途絶えることなく、点検・補修する



保全事業システムの推進

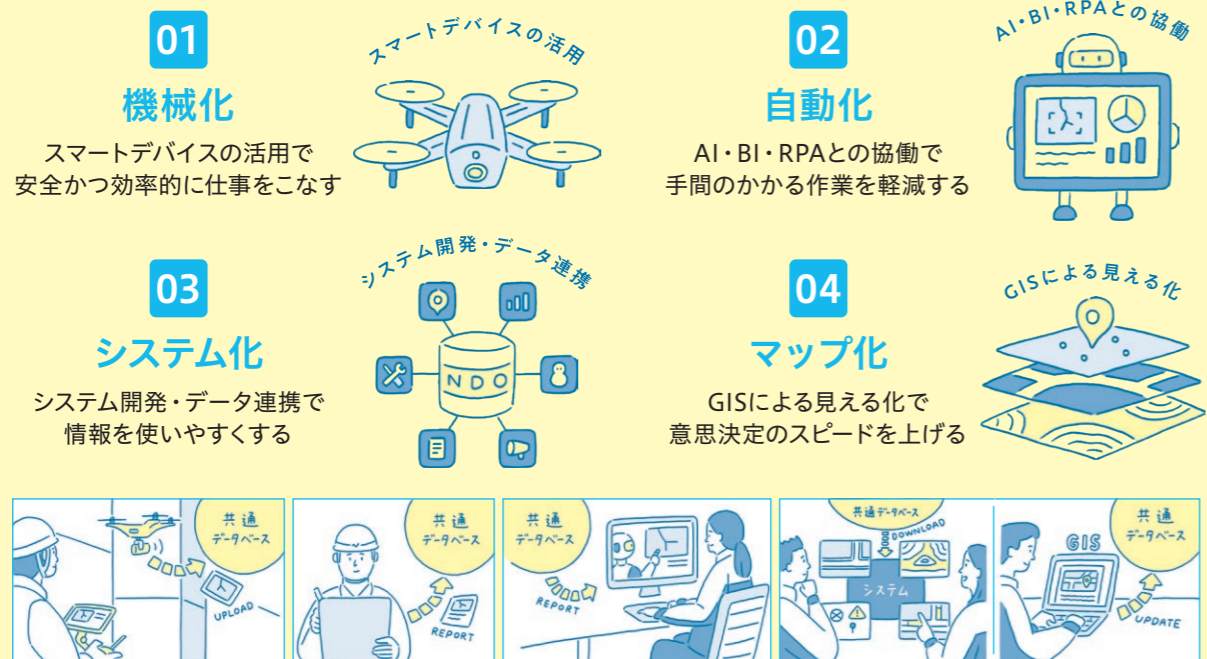
快適な走行環境を守り、高速道路を将来にわたって健全な状態に保つためには、構造物の状態を正確かつ迅速に把握・診断し、いつどのような対策を実施するのか、または監視していくのかなど、適切な維持補修計画を策定し実行することが重要です。当社グループでは、点検・診断・補修・記録/蓄積の一連のサイクルである「保全事業システム」の確立と高度化・効率化を推進しています。

メンテナンスにかかる仕事量が増大
近い将来、管理延長は約3,680kmに拡大

現在の業務サイクル・品質の維持が困難
10年後には高速道路の約3割が経過年数50年超え

デジタル技術を活用した働き方で、ムダ・ムリ・ムラを削減し
時代の変化に応える維持・管理の進化を実現

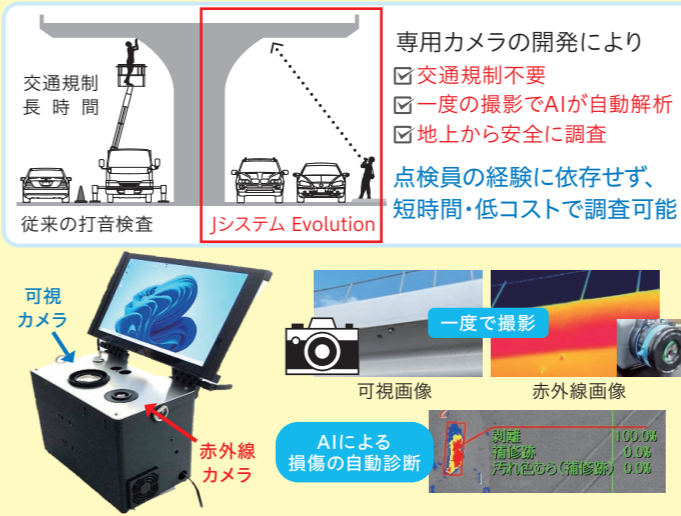
DXを実現する4つの柱で、業務効率化を図る



- DX (digital transformation) : デジタル技術を活用して、業務そのものやプロセスを変革すること
- AI (artificial intelligence) : 人工知能
- BI (business intelligence) : システムに蓄積した膨大なデータを可視化するツール
- RPA (robotic process automation) : 定型的に反復する事務作業を高効率で処理するソフトウェアロボット
- GIS (geographic information system) : 地図上で位置や空間に関する情報を管理・分析するシステム
- NDO (nexco data ocean) : 当社の維持・管理に関するデータベース

DXによる効率化・高度化事例

打音点検範囲を削減する 次世代赤外線画像判定支援システム (Jシステム Evolution)



Voice

開発者の声

Jシステムは開発以降改良を重ね、2024年2月には、熱反射除去の自動化、AI診断による解析の自動化を行い、点検員の経験に依存しない調査が可能となりました。点検の効率化は安全・安心な高速道路を維持するうえでとても重要な課題です。引き続き性能を高め、高速道路の安全・安心の維持に貢献していきたいです。

西日本高速道路エンジニアリング四国(株)
本社 技術本部 技術部 統計分析課 山下 民岐子

鋼橋の点検にドローンを導入 (動画による目視点検)

NEXCO 東日本・NEXCO 中日本と連携した検証を経て、2024年4月から、ドローン(UAV)で撮影した動画による鋼橋の目視点検を導入しました。

動画による点検の検証結果

- ☑ 従来の近接目視と同等の精度で健全性の診断を行うことが可能
- ☑ 従来の近接目視では人が近接しづらく変状を確認しにくい部分の状態の把握が容易
- ☑ 従来必要だった交通規制や点検用足場が不要となることで、点検のコスト削減が可能

GIS情報共有マップ



Voice

開発者の声

現場で発生している様々な事象を一つのマップ上で見える化・共有・報告をすることで、意思決定の迅速化を実現するシステムです。プログラミング等の専門知識がなくても、必要な情報をマッピングしたWebマップの作成が可能です。災害発生時等の迅速な対応をサポートできるよう、使いやすいシステムを目指して開発しています。

NEXCO西日本情報テクノロジー(株)
道路情報システム事業部 保全情報システム課 吉見 栄俣

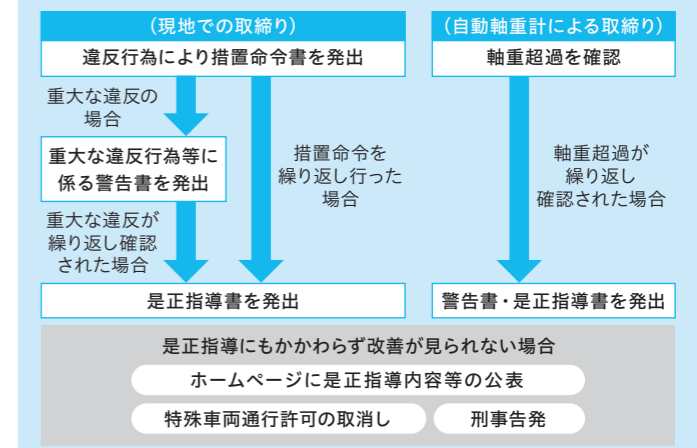
通行車両による道路へのダメージを減らす

重量超過等の法令違反車両の取締り

重量超過等の違反車両の走行は、高速道路の損傷や老朽化を加速させる要因となっており、また、パンク等により交通事故の原因にもなります。

当社グループでは、高速道路を永く、安全に通行していただけるよう、法令違反車両に対する指導・取締りを行い、特に常習的・悪質な違反者に対しては、当社ウェブサイトでの是正指導内容の公表や警察への告発を行っています。

違反者に対する指導の流れ





高速道路リニューアルプロジェクト

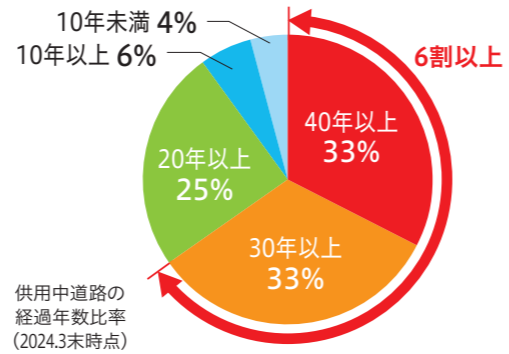
100%の安全・安心を支え続けるために

いま対策を行えば、高速道路は“安全に長生き”します

1963年、日本で最初の高速道路である名神高速道路（粟東IC～尼崎IC）が開通してから60年が経過し、現在、当社が管理する高速道路のうち6割以上が供用から30年を超えました。

経過年数の増加や、大型車交通量の増加、車両総重量の増加、凍結防止剤の散布などにより、道路の老朽化や劣化が進行しています。

当社グループでは、高速道路ネットワークの機能を将来にわたり維持していくために、2016年から「高速道路リニューアルプロジェクト」を実施しています。



橋梁の床版取替

損傷した鉄筋コンクリート床版をより耐久性の高い床版に取り替え

プレストレストコンクリート床版への更新

橋梁の床版修繕

損傷したコンクリート床版を

- ・より強くなるため、厚さを増すなどで補修
- ・損傷を抑制するため、高性能床版防水を施工

水の遮断、舗装、高性能床版防水、床版の補修

トンネルインバート設置

山の性質が悪く、経過年数の増加に伴い過度な力がかかっているトンネルを、リング状のより強い構造とすることで安定性を向上

インバートなし、インバート設置、土圧、路面隆起

のり面グラウンドアンカー設置

のり面の安定性を高めるため、追加のグラウンドアンカーを設置することで、安定性を向上

橋を架け替えるなど、大規模な工事となるため、通常の補修工事よりも長期間の交通規制が必要です。

工事規制・通行止め情報



2024年7月以降に大規模な交通規制を伴うリニューアルプロジェクト



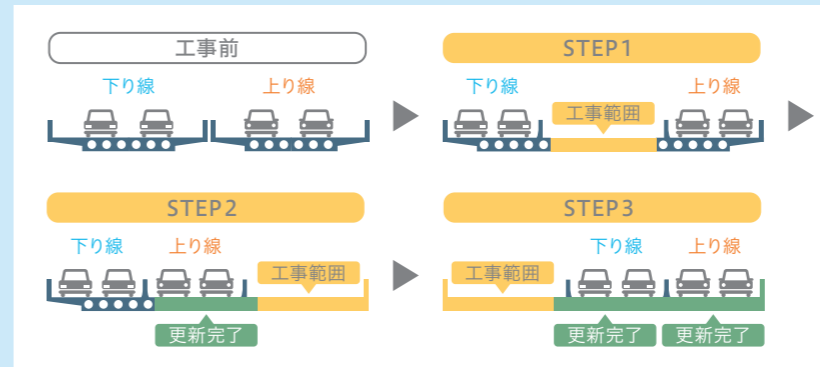
中国道(山口JCT-美祿東JCT)床版取替工事

工事渋滞による社会的影響を、最小限に

— 大規模な渋滞が予測される場合の対策 —

可能な限り通行止めを避け、車線規制等で通行帯を確保

迂回路利用を促進



阪和道(和歌山北IC～和歌山南スマートIC)リニューアル工事では、段階的に車線規制・車線幅員の減少を行うことで、上下線の交通を確保した状態で、橋梁の床版取替を実施

中国道リニューアル工事時に新名神への迂回走行を行うと、SA・PAで使えるポイントをプレゼントする「みちトク迂回クーポン」

Voice 地域の状況に応じた渋滞対策



山口JCT～下関JCTの中国道リニューアル工事では、迂回推奨ルートに一般道である山口宇部道路が含まれるため、迂回にご協力いただいた方の通行料金が割高になってしまう状況でした。そこで、迂回しない場合と同額になるよう料金の調整を行いました。迂回路利用の広報も強化し、テレビCMを放映する等、地域の状況に応じた渋滞対策を行っています。

中国支社 山口高速道路事務所 改築第一課 横井 貴弘

最新の技術・知見により、新たに更新が必要な箇所が判明しています

定期点検及び点検技術の高度化を踏まえた詳細調査の結果、新たな劣化事象や劣化の進行が確認されています。劣化メカニズムの解明や更新の必要性に関する最新の知見を踏まえた更新計画をとりまとめ、2024年3月から新たな更新事業を開始しました。引き続き、点検・診断・措置・記録といった維持管理サイクルを継続するとともに、新たな更新事業についても着実な事業推進を図っていきます。

新たな更新計画の詳細はこちら (2024年1月公表)



新たな更新事業は、料金徴収期間を延長することにより実施します。詳細はP.11をご参照ください。

災害対応力の強化



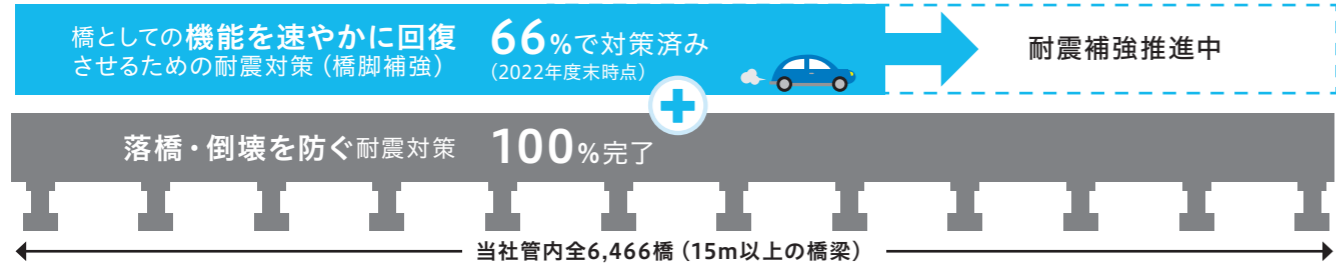
多発する自然災害から、地域と暮らしを守り抜く

橋梁の耐震補強

地震発生時、人命救助・被災地の復旧のためには、高速道路が緊急輸送路としての機能を速やかに確保することが重要です。2016年発生の熊本地震で得た教訓を生かし、災害時に速やかに機能回復できる道路とするべく、耐震補強対策を進めています。



九州道を横架する県道の府領第一橋
高知道 大豊IC～南国IC 入野橋
高松道 三豊鳥坂IC～さぬき豊中IC 高瀬川橋



耐震対策の概要

補強前	補強後
橋脚補強 大きな地震力に対し橋脚を補強することで変形・破壊を抑制します。	橋脚補強 高知道 新宮IC～大豊IC 久保ヶ内橋
支承取替 地震エネルギーを吸収し、構造系に作用する力を低減します。	支承取替 大分道 湯布院IC～日出IC 福万川橋
落橋防止 想定を超える変位・変形が橋に生じた場合、落橋という不測の事態を防止します。	落橋防止 中国道 北房IC～新見IC 下布瀬橋

さらなる推進に向けて

- 耐震補強工事の入札不調対策、新技術の採用等の取り組みとともに、組織体制の強化により、耐震補強対策を加速化
- 上下線の橋脚が分離している橋梁では、どちらか一方の橋脚補強を優先するなどの手法を採用

高速道路の耐震補強実施計画 (2024年1月公表)

地震被災地への支援 × 高速道路会社

2024年1月1日に発生した能登半島地震への支援として、NEXCO中日本・NEXCO東日本との協力のもと、計42台のトイレカーを派遣しました。また、当社グループからの義援金1,137万円と当社グループの役員・社員からの義援金1,130万円を日本赤十字社に寄付いたしました。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

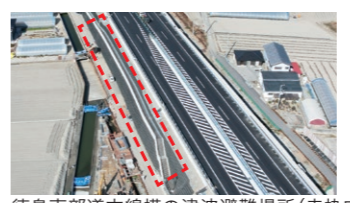
トイレカーを派遣（輪島市輪島中学校）

NEXCO西日本グループの災害対応タイムライン

通常期

構造物の強化による被害予防

- 橋梁の耐震補強
- 津波一時避難場所の整備
- のり面排水機能の強化



徳島南部道本線横の津波避難場所（赤枠内）

降雨災害時ののり面被害は、排水構造物が直接関与した崩壊が約半数を占め、さらに、その約半数が縦溝や集水ます等の合流部で発生。これらを踏まえ、高速道路リニューアルプロジェクト(P.15-16)の中で、のり面の排水構造物の大規模修繕に取り組んでいます。



強化後の縦溝と集水ます

災害対応訓練

交通機能確保等の社会的役割を果たすため、防災業務計画の整備や防災訓練等、グループ一丸となって、関係機関と連携し、ソフト面の災害対応力を強化しています。



グループ会社や関係機関との合同による段差復旧訓練

- 大規模災害発生時における相互協力に関する協定（自治体）
- 津波緊急避難における高速道路敷地の一時使用に関する協定（自治体）
- 災害時の相互連携に向けた協定（電力会社）
- 災害時における社員等の宿泊施設確保等の協力に関する協定（旅行会社）
- 災害時における総合通信局との相互連携に関する協定（総務省各総合通信局） など



季節前の準備



降雨出水期前の防災会議 資器材の準備

過去の災害経験の継承

熊本地震や平成30年7月豪雨等、過去の甚大な被災・復旧経験を次世代へ継承する勉強会を開催



気象予測等に応じて防災体制を構築強化

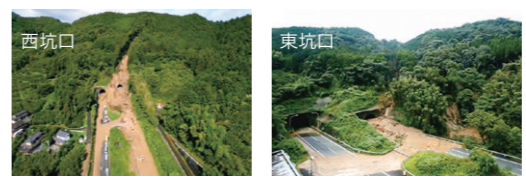
お客さまへの情報発信

事前通行止め等による被害抑制

気象情報・交通情報 確認しましたか？

テレビCMやウェブサイト、X（旧Twitter）、関係機関との合同記者会見等による情報発信

2023年7月10日に発生した大雨による土石流被害 大分道 朝倉IC～杷木IC 高山トンネル



速やかな安全確認と被害把握



voice 一刻も早く、通行止めの解除を

大分道の高山トンネルは、土石流で上下線全ての坑口が塞がれました。周辺地域の被災地へ向かう「命の道」として救助救援ルートを早期に確保すべく、関係者が一丸となって24時間体制で復旧にあたり、上り線を使った対面通行により発災から5日で通行止めを解除することができました。いざという時に備えた日頃の連携が活かされ、結束力を発揮できたと思います。

実際の復旧対応時の様子



九州支社 久留米高速道路事務所 保全計画第一課 三村 満咲

災害が予見される場合

災害発生

応急復旧

緊急交通路として速やかに機能回復

本復旧

トップメッセージ

グループ理念CSR活動方針 私たちについて

安全・安心

ネットワークの強化

快適に、豊かに

特集

サステナビリティへの基盤

データ



24時間365日、安全で、円滑な高速道路へ

道路管制センターと交通管理隊

24時間365日の安全・安心を守るため、道路管制センターと交通管理隊が、24時間体制で道路上の各種設備や道路巡回により様々な情報を収集し、事故・落下物等への緊急対応やお客さまへの情報提供を行っています。



Voice 交通安全への道は、出発前から始まります

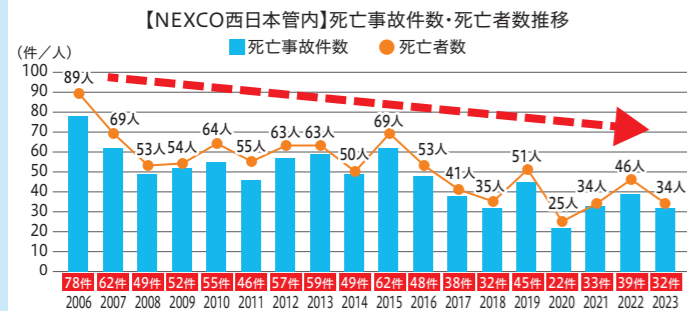
交通管理隊は、24時間体制での道路巡回により道路状況・交通状況・気象状況等を把握し、お客さまへ安全・安心で快適な道路を提供することに努めています。高速道路上で故障等により停止した場合、事故を誘発する恐れもあり、大変危険なことから、SAやPA等でお客さまに車両の出発前点検の重要性をご説明するなど交通安全啓発にも力を入れています。



高速道路走行中に落下物等の道路異常を発見した際は、**道路緊急ダイヤル #9910**へ

西日本高速道路パトロール中国(株) 千代田基地 早川 あさ美

安全運転の啓発



死亡事故件数は徐々に減少していますが、未だ多くの尊い命が失われています。

SNDプロジェクト

—交通事故をゼロにするための危険運転撲滅プロジェクト—

当社と阪神高速道路(株)、本州四国連絡高速道路(株)、(株)エフエム大阪の4社共同で、高速道路での交通事故につながる「ながら運転」による危険運転を撲滅し、交通事故ゼロを目指すべく、「STOP! NAGARA DRIVING PROJECT(通称SNDプロジェクト)」を推進しています。



SNDプロジェクトでは、ともに行動・応援いただけるサポーターを募集しています。「ながら運転」撲滅へのメッセージとサポーター登録はこちら



SNDプロジェクト
冬のメッセージキャンペーン
グランプリ作品(2024)



『まだ大丈夫』は『少し休もう』のサインです。

テーマ 疲れながら運転(埼玉県/中也様)



(株)エフエム大阪によるSDDプロジェクトと連携し、大阪城ホールで開催された『LIVE SDD 2024』の観客約1万人へ「ながら運転」の危険性を啓発する取り組みを行っています。

冬のメッセージキャンペーングランプリ作品を基にした朗読劇



SDD: STOP! DRUNK DRIVING=飲酒運転撲滅活動

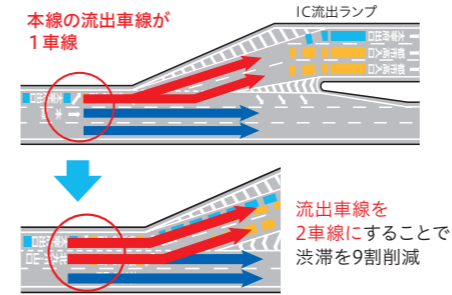
渋滞対策

快適な走行と交通安全のため、ハード対策とソフト対策の両方から、渋滞対策を推進しています。

ハード対策 渋滞しない道路を目指す

1. ネットワークの強化 (P.23~29)
2. 車線幅 (P.23, 27, 28)
3. 車線運用の変更
4. ETC利用率向上

渋滞状況を踏まえた車線運用の変更(太宰府IC)



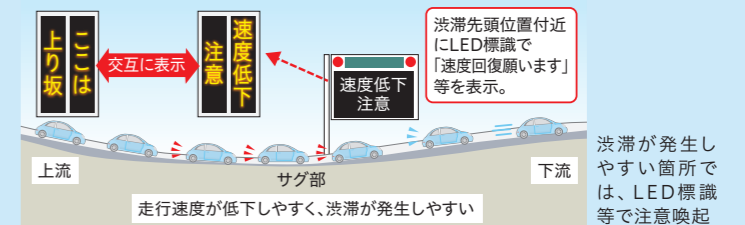
Voice 渋滞を緩和するために

高速道路をご利用の際の一番のストレスは渋滞ではないでしょうか。そんな渋滞を避けられるよう、私たち渋滞予測士は年間を通じて渋滞を予測し、発表しています。ゴールデンウィークや3連休など、お出かけ前にはぜひ渋滞予測カレンダーをご確認ください。

九州支社 保全サービス事業部 交通計画課 渋滞予測士 松下 聖史

交通分散を促す

1. 渋滞予測ガイド・テレビ・ラジオ等による広報
2. LED標識等による速度低下等の注意喚起
3. 休日割引の対象日からGW等の繁忙期を除外 (P.32)



渋滞が発生しやすい箇所では、LED標識等で注意喚起

逆走対策

高速道路での逆走は、死亡事故等の重大な事故につながる可能性が高く、正しく走行している車両をも巻き込む可能性のある極めて危険な行為です。当社では、「2029年までに逆走による重大事故ゼロ」を目指し、効果的な対策を見定め、高速道路での逆走事故の撲滅に取り組んでいます。

- 年間70件程度の逆走事案(事故または確保)
※事故に至るのは10件程度
- 65歳以上の高齢者によるものが7割近くを占める
- 逆走事故は、死傷事故・死亡事故となる割合が高い
(高速全事故に対して、死傷事故5倍、死亡事故40倍)



(左) 逆走車両に対する防眩板応用注意喚起
(右) 一般道接続部のカラー舗装(逆走・誤進入防止)

無くそう 逆走

逆走は命にかかわる危険行為です。
逆走しない、させない、事故にしない



正面衝突の防止

反対車線への飛び出しにより正面衝突につながりやすい暫定2車線区間では、区画柵の設置・検証を実施しています。

区画柵を設置済みの箇所では、正面衝突による死亡事故が0件となりました。(2024年3月現在)



ワイヤロープ



センターブロック



センターパイプ

降雪時の交通確保に向けて

基本方針 「人命を最優先に、幹線道路上で大規模な車両滞留を徹底的に回避する」

冬の高速道路の安全・安心を確保するため、上記基本方針のもと、凍結防止剤散布作業や除雪作業等、高速道路の安全で円滑な交通確保に向けて各種対策に取り組み、大雪時の雪氷対策の強化を図っています。

また、2023年1月に名神・新名神で発生した大雪による大規模な車両滞留事象の課題を踏まえ関係機関と連携し、対応を実施しています。

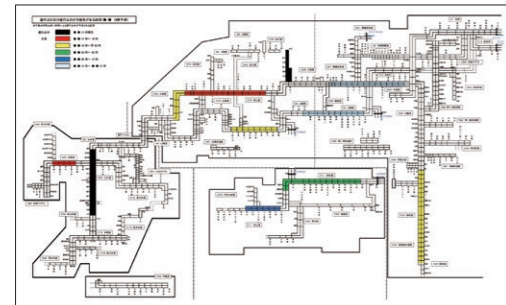
気象予測情報により大雪が予測される場合は、立ち往生車や滞留車が発生する前に躊躇なく通行止めを行うことを想定し、以下のオペレーションを基本として実施します。



大雪時のタイムライン

段階	国・自治体・警察・気象台など	NEXCO西日本	高速道路利用者への呼びかけ				テレビCM ラジオCM YouTube	道路情報板
			記者発表	ウェブサイト	X LINE	高速道路影響情報サイト		
1週間前	気象情報の共有など	通常の雪氷体制			冬装備 安全運転	冬装備 安全運転	冬装備 安全運転	
3日前	情報連絡本部での連携	体制強化 ●応援派遣 ●協力要請 (災害協定事業者など)	大雪が予想される地域と時期 注意喚起・出控え・予想される通行止め区間		出控え (切替)	注意喚起	冬装備 安全運転	
1日前	大雪に関する緊急発表		通行止め可能性区間と時間帯 ※概ね6時間毎に見直し					
降雪中	●情報の一元的収集・共有 ●関係機関での各種調整・協議 ●道路利用者や地域住民への情報提供	立ち往生車・ 車両滞留発生前に 予防的通行止め 集中除雪	【通行止めの場合】 ●通行止め区間 ●作業状況・解除見込みなど 集中除雪			冬タイヤ装着 /チェーン携行 規制情報 通行止め等		

管理限界を超える大雪が予測される場合、概ね2日前から通行止め可能性MAPを公表します



お出かけ前には、リアルタイム交通情報を提供しているi-Highway (アイハイウェイ) のウェブサイトやスマホアプリ、X (旧Twitter) のご確認を



リアルタイム交通情報

i-Highway
ハイウェイ交通情報サイト

スマホアプリ

ウェブサイト

X

お客さまご自身の命を守るためにも、「大雪に関する緊急発表」や「大雪警報」等が出されるような大雪への警戒が特に必要な場合には、不要不急の外出をお控えいただくとともに、広域的な迂回、出発時間の変更などをお願いします。

- お出かけ前のお願い**
 - お出かけ前には最新の交通情報を確認してください。
 - 冬の高速道路は、冬用タイヤで走りましょう。
 - タイヤチェーンは常に用意しましょう。
- 荷主企業・運送事業者の皆さまへのお願い**

大雪の影響に伴う広範囲の通行止めが予測される際には、気象予測等をご確認いただき、**広域迂回の実施や通行ルートの見直し、運送日の調整**などのご協力をお願いします。
- 走行中のお願い**
 - 雪道の走行では、『急ハンドル』、『急加速』、『急ブレーキ』は厳禁です。速度は控えめに、車間距離は通常時より多めにとりましょう。
 - インターチェンジ入口や本線等に設置された情報板及びハイウェイラジオにより気象状況等をお知らせしております。目的地までの情報に注意して走行してください。
 - 凍結防止剤散布や除雪作業を行っている雪氷対策作業車とは車間距離を十分にとり、後ろをゆっくりと走行してください。

TOPICS

山陽道 尼子山トンネル 火災事故の復旧 焼け落ちたトンネル

山陽道(下)播磨JCT～赤穂IC 尼子山トンネルにおいて、2023年9月5日に大規模な火災事故が発生。8名の方が負傷され、焼損車両23台、事故車両9台となったトンネル火災は、消防により鎮火が宣言されるまで40時間以上を要し、炎と熱の影響で、トンネル内部はコンクリートが剥落し、照明設備等も焼け落ちる等、甚大な被害を受けました。



めざせ『早期解放』

通行止めとなった山陽道は、日本の東西物流幹線の一翼を担う重要路線です。一日も早い復旧が求められました。経験のない甚大な被害状況により、当初は復旧が見通せない状況でしたが、学識者を招いた技術検討会等を重ねながら、安全を第一に、慎重かつ迅速に復旧を進めました。

責任者の声

年末年始を3ヵ月後に控えていたこともあり、一日も早く復旧し、社会インフラとしての責務を果たすため、当社・グループ会社・施工会社29社が一体となって24時間体制を取り、復旧に当たりました。

関西支社 姫路高速道路事務所 所長 吉田 英樹

地域の生活・経済への影響を、最小限に

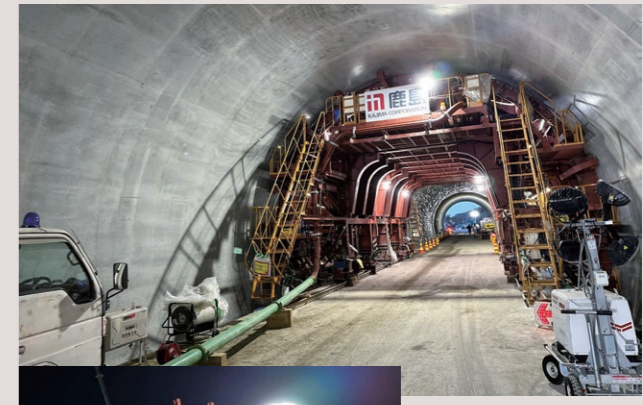
現場での復旧工事だけでなく、一般道等迂回路での渋滞による社会的影響を最小限にするべく、「みちトク迂回クーポン」の発行による広域迂回の促進や、ウェブサイトやテレビCM等での情報発信を行いました。

地域の声

中国道への迂回など渋滞対策をはじめ、総力を挙げて取り組んでいただき、類例を見ないスピードで、約3ヵ月後の12月15日に復旧しました。改めて、ご尽力に対し厚くお礼申し上げます。

お陰で、市内の一般道への流入による渋滞等も最小限の影響にとどまり、現在は事故前の交通量に戻り、市民生活の安全安心が確保され、経済活動も円滑に進んでおります。本市では、牡蠣のシーズンにも間に合い、山陽道 赤穂ICから大勢の観光客を迎えることが出来ました。

兵庫県 赤穂市 牟禮 正稔 市長



セトルによる覆工コンクリートの打設(内巻補強工)

火災を受けたコンクリートの撤去・復旧工事を担当しました。前例の無い火災に対する緊急復旧のため全てが手探り状態でしたが、『早期解放』の使命感のもと施工準備を行い、設備等は施工進捗に合わせて適宜改善しました。24時間体制を整え、①切削重機を長時間フル稼働できるメンテナンス体制の確保、②覆工コンクリートを毎日打設するためセトルを2基使用、③狭隘な坑内において輻輳する他業者との綿密な工程調整などを実施。予定より早く次の工程に引き渡すことで早期通行止め解除に貢献ができて、ほっとしました。

施工会社の声

鹿島建設(株) 向 弘晴 所長



約3ヵ月の短期間で復旧を完了し、2023年12月15日に通行止めを解除



新規建設事業中の新名神高速道路（大津JCT～城陽JCT・IC）大戸川橋の架設工事（張出架設工法）。

新規建設・6車線化

ひと、モノ、未来をつなぐ

交通混雑の緩和、交通安全の確保、災害時の代替機能強化や地域活性化などを目的として、高速道路の建設を推進しています。

建設進捗情報

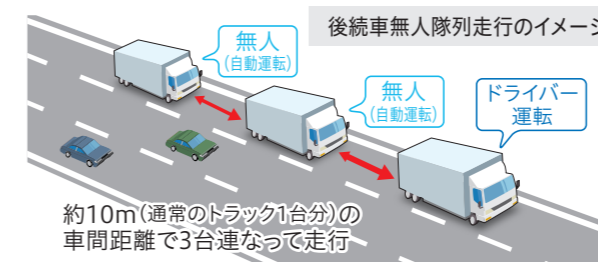


1 新名神高速道路

八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC 10.7km（6車線での新規建設）
 大津JCT～城陽JCT・IC 25.1km（6車線での新規建設）
 甲賀土山IC～大津JCT 22.5km（6車線化）

整備効果

1. 国土軸のダブルネットワーク化
 名神・東名高速とともに国土軸の骨格を形成
 事故・災害時における代替路として機能
2. 高速走行による所要時間の短縮及び定時性の確保
3. 物流の生産性の向上
 ダブル連結トラックやトラック隊列走行などの次世代物流システム実現に向けた環境を整備
4. 観光産業・沿線地域の活性化



新名神 大津JCT～城陽JCT・IC 新名神大津SA（仮称）予定地



新名神 八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC 高槻高架橋 下部工工事

ネットワークの強化

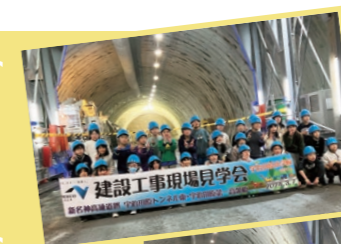
地域の発展と、暮らしや利便性の向上に貢献するより安全で、使いやすいネットワークへ



米子道（江府IC～溝口IC）4車線化工事では、完成後に添谷トンネル下り線となる新たなトンネルを建設中。



学校教育
 ×
 高速道路



当社グループでは、地域の教育機関と連携し、建設現場や料金所等を教育の場として提供する活動を続けています。

自分も成長

地域の学校と連携した現場見学会は、開通する前から地域に貢献できる取り組みとして、やりがいを感じています。説明内容を試行錯誤することで、自身の事業理解も深まっています。

Voice



関西支社 新名神京都事務所 工務課 吉田 朋恵

建設進捗情報



スマートIC設置情報



工事規制・通行止め情報



ウェブサイト

2 神戸西バイパス (第二神明道路北線)

永井谷JCT～石ヶ谷JCT 6.9km

整備効果

1. 交通混雑の緩和による第二神明道路の事故減少
2. 物流ネットワーク拡充による東西方向の物流効率化
3. 第二神明道路の代替路の確保

3 大和北道路 (京奈和道)

奈良IC～郡山下つ道JCT、奈良北IC～奈良IC 12.4km

整備効果

1. 交通混雑の緩和・交通円滑化
2. 交通の転換による、国道24号の交通事故減少
3. 移動時間短縮による観光行動の支援
4. 沿線地域の整備による産業の活性化

建設進捗情報



IC名称は仮称を含む

大和北道路 横田第一高架橋下部工工事



神戸西バイパス 樋谷工事



神戸西バイパス 菅野高架橋上部工工事



支障移転の現場打合せの様子



神戸西バイパス 第四平野西高架橋他1橋下部工工事

Voice 誰もが使いやすい施設をつくる

神戸市と明石市を結ぶ延長12.5kmの神戸西バイパスのうち6.9kmの建設区間の施設工事を担当しています。現在、土木工事の支障となる既設設備の支障移転工事と料金所建物の設計を実施しています。国土交通省、阪神高速道路(株)、通信事業者、工事受注者等関係者が多く関わるため、各関係機関との協議やとりまとめ、工程管理に苦労しました。女性の社員が増えてきている中、誰が使っても使いやすい施設にすることを心がけています。



関西支社 第二神明道路事務所 施設工事区 上殿 明日香

4 淀川左岸線延伸部

門真JCT～阪神高速接続部 1.1km

整備効果

1. ネットワークの拡充による大阪都市圏の交通円滑化
2. 並行する都市高速における通行規制時の迂回路確保及び災害時の避難・救護活動を支える広域的な輸送路としての機能確保
3. 物流の効率化による沿線地域への新たな企業進出等、地域経済の活性化



淀川左岸線延伸部 門真高架橋上部工工事

5 名神湾岸連絡線

西宮IC～阪神高速接続部 0.3km

整備効果

1. 交通の転換による阪神高速3号神戸線の渋滞緩和
2. 新たな道路ネットワークによる物流の効率化
3. 災害時の緊急輸送や阪神東西軸におけるリダンダンシーの確保



うち、名神高速道路に接続するJCT部0.3kmの舗装・設備を当社が担当

2024年3月に国土交通省、阪神高速道路(株)、当社による合併施行方式が導入されました。

TOPICS 松山道 全線開通から20年間の整備効果

松山道は、1985年の三島川之江IC～土居IC間の開通を皮切りに、2004年の大洲北只IC～西予宇和IC間の開通によって、全国の高速道路ネットワークと結ばれました。松山道の開通により、所要時間の大幅な短縮による物流の向上、四国内外の交流促進や観光動向の変化などの効果を生み出し、第二国土軸の役割を担うなど、沿線地域の経済・暮らしを支えています。



2004年大洲北只IC～西予宇和IC開通式典

🚗 交通量推移と経済波及効果

利用交通量は開通から増加を重ね、約38年間で累計1億9000万台に到達
松山道の整備による経済波及効果は、20年間で約2.1兆円

🕒 所要時間・行動範囲の変化

高速道路利用者の四国外への移動人数が約8倍に増加(1985年比較)
愛媛-大阪間の高速バスの所要時間は、約1時間30分短縮(1990年比較)
高速バス利用者は、年間97万人を超え、多くの方に利用されている

👤 沿線の観光客動態

愛媛県外からの観光客は、約2倍に増加(1985年比較)
交通手段別にみると、観光客の約8割が自家用車と貸し切りバスを利用

🏭 地域生産活動と流通利便性の向上(工業)

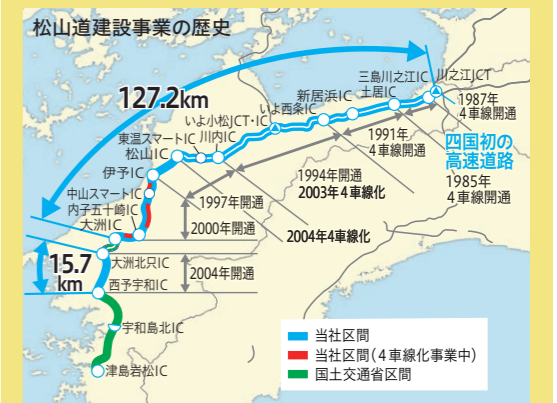
愛媛県発着の貨物輸送において自動車での輸送が約2倍に増加
愛媛県内の工場の立地が約6倍に増加(どちらも1980年比較)

🐟 地域生産活動と流通利便性の向上(農水産)

大阪市場での養殖真鯛の取扱量が、約40倍に増加し、
全国シェアにおいても大幅に拡大(1984年比較)

🚨 災害時における松山道の役割

京阪神と九州間を結ぶ第二国土軸の役割を担っており、平成30年7月豪雨では、本州ルートに代替する最短支援ルートとして貢献



【宇和島～大阪間の所要時間】
1990年 9時間
2022年 7時間21分
宇和島～大阪間のバス所要時間が約1時間30分短縮

4車線化

安全・安心の更なる向上を目指して

暫定2車線区間の課題

速度低下・渋滞

4車線区間と比較すると規制速度が低く低速車両の追い越しができないため、後続車両を含め全体的に速度が低下し、渋滞が発生しやすくなっています。

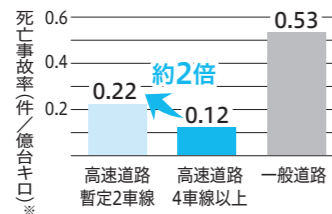


阪和道 印南IC～みなべIC

→ 時間信頼性確保

正面衝突等による重大事故

反対車線と完全に分離する構造になっておらず、ひとたび事故が発生すると、正面衝突に発展する等により、死亡事故等の重大事故となるおそれが4車線区間と比較すると高くなっています。



※ 高速道路: H25-R3 高速自動車国道(有料)
一般道路: H25-R3 一般国道、主要地方道、県道、市町村道、その他道路
出典: 自動車燃料消費量調査 月報の各年1~12月 高速トラカンデータ

→ 事故防止

事故防止の緊急対策として実施している区画柵の設置については、P.20へ

課題への対応 — 4車線化 —

暫定2車線区間における課題を踏まえ、お客さまの安全・安心の確保、大規模災害時の早期復旧の支援等の観点からも、暫定2車線区間の計画的な4車線化を推進しています。



東九州道 宮崎西IC～清武IC 切土による拡幅



広島呉道路 坂北IC～呉IC 4車線化工事プレスツアー



東九州道(隼人道路) 隼人東IC～隼人西IC 清水川橋下部工工事

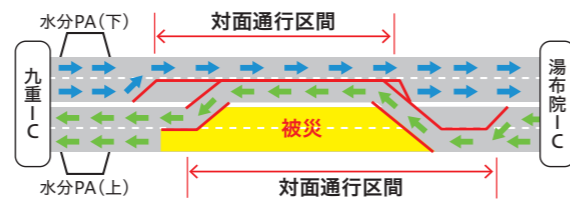


徳島道 脇町IC～美馬IC 脇大谷川橋下部工工事

通行止めの発生や長期化

- ・事故や積雪等による立ち往生発生時に追い越しができず通行止めとなります。
- ・大規模な工事を実施する際に、長期間の通行止めが必要となります。
- ・災害発生時における全面通行止めの解除に時間がかかります。

→ ネットワークの代替性確保



「令和2年7月豪雨」の被災事例

4車線区間では、上下線のいずれかが被災しても残る車線を対面通行とすることで、早期に交通機能を確保し、復旧支援や緊急物資運搬等に大きく貢献できます。



TOPICS 4車線化工事の完成に合わせた通行料金の変更

有料道路事業の導入により4車線化事業を行っていた以下の2路線が、2024年度から順次完成します。完成後、国土交通省から当社に管理が移管され、通行料金の変更となります。

● 西九州道 佐々IC～佐世保大塔IC

佐々IC～佐世保中央ICの4車線化完成に合わせて新たな料金へ切り替え

4車線化事業区間 約16.9km
2024年度から順次完成見込み

新たにNEXCO管理になる区間

● 八木山バイパス

2024年度内の篠栗IC～筑穂ICの4車線化完成に合わせて料金徴収を開始

4車線化事業区間 約13.3km
篠栗IC～筑穂IC 2024年度内完成見込み

新たにNEXCO管理になる区間

【凡例】 — NEXCO有料道路(事業中) — NEXCO有料道路(供用中) — その他有料道路(供用中) — 主な一般国道

通行料金の詳細については下記ニュースリリースを、完成時期等の最新情報は当社ウェブサイトをご確認ください。

西九州道の料金に関するニュースリリース

八木山バイパスの料金に関するニュースリリース

ウェブサイト(最新情報はこちら)

Voice お客さまと一緒に、スムーズに完成を迎えるために

佐世保道路4車線化事業に伴う長期夜間通行止めの周知や、ETC利用促進を目的としたETC割引制度の紹介など、イベント等の多様な手段を通して、事業理解や完成後の利用しやすい高速道路に向けた広報を強化しています。

今後は、4車線化完成に伴う料金変更について事前にお客さまにご認識いただき、スムーズに完成を迎えられるよう、引き続き広域的な広報を展開していきます。

させぼシーサイドフェスティバルでは、パネル展示やETC利用促進の個別説明を実施

九州支社 佐世保工事事務所 工務課 古川 隆一
佐賀高速道路事務所 総務課 吉村 妃菜希

スマートIC

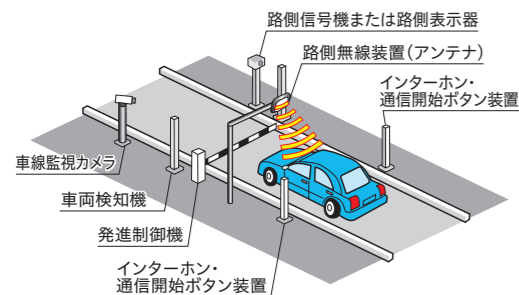
地域へのアクセス向上

スマートIC設置情報



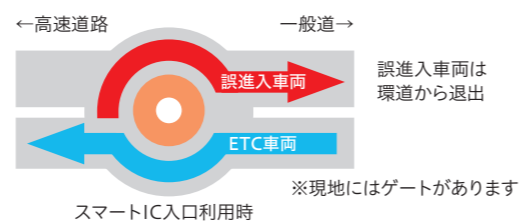
スマートICは、高速道路の本線やSA・PA、バスストップから乗り降りができるように設置されたICです。通行可能な車両を、ETCを搭載した車両に限定しているため、簡易な料金所の設置で済み、従来のICに比べて低コストで導入できるなどのメリットがあります。

スマートICの整備により、市街地や観光地へのアクセスが向上し、高速道路が更に利用しやすくなります。当社では、2004年12月に初めてスマートICが開通し、現在は39カ所のスマートICが開通済みです。また、11カ所で新たなスマートICの建設事業を進めています。



建設事業中スマートIC 11カ所 (名称は仮称を含む)

東温スマートIC、小郡鳥栖南スマートICの出入口には「環道型退出路」を採用し、ランプ形状をコンパクト化



開通 2024年6月9日開通
小郡鳥栖南スマートIC



開通 2024年3月23日開通 東温スマートIC



voice 松山道 東温スマートICの開通によせて

今回の東温スマートIC開通は、各主要都市へのアクセス向上や救急医療・防災の体制強化など、様々な波及効果を生むものと期待しています。

東温市ではこの好機を最大限に活かし、周辺エリアにおいてアクセス道路や工業団地、スポーツ拠点の整備などを「チーム東温」で一体的に進めることで、安定した雇用の創出や地域経済の活性化につなげ、人口減少に負けないまちづくりを進めてまいります。

東温スマートIC開通をきっかけに「東温市」の名前を覚えていただき、緑豊かで「温か笑顔」にあふれる元気ながまち、東温市にぜひともお越しください。



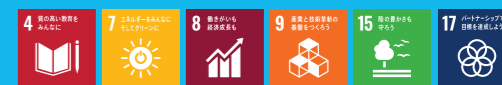
2024年4月19日にリニューアルオープンした長崎道 大村湾PA (上) の新設テラス『青い庭』。地域の交流拠点を目指し、名称は東彼杵町との地域共創プロジェクトとして一般公募で決定。

SA・PA情報



快適に、豊かに

ひと・モノを快適に運び、
毎日の生活と、社会、地域を豊かに



料金・交通情報



2024年3月18日から新たにETC専用料金所として運用を開始した高松道 さぬき豊中料金所。「ETC/サポート」と表示されたレーンは、誤って非ETC車でETC専用料金所に進入した場合に通行人に案内するレーン。



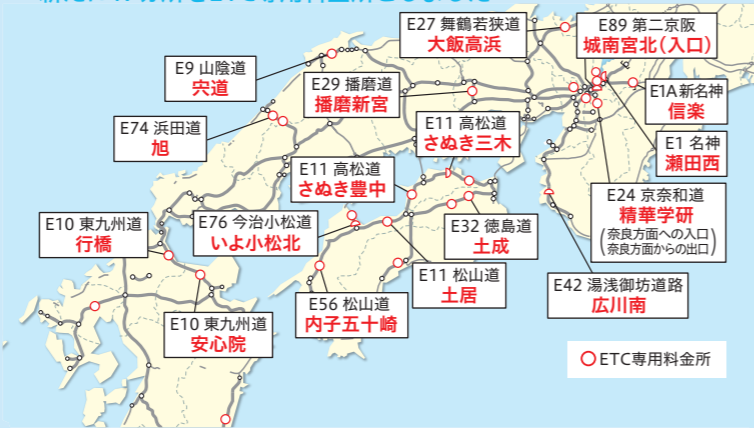
いつでも、誰もが使いやすい高速道路へ

ETC専用化等による料金所のキャッシュレス化・タッチレス化

新しいモビリティ社会に向け、お客さま・社会のニーズに適応した料金收受を目指し、ETC専用化等の取り組みによるキャッシュレス化・タッチレス化を推進します。

2023年に運用開始済の11カ所に加え、2024年3月18日から新たに17カ所をETC専用料金所としました

サポート
ETC サポート
※イメージです。
ETC専用料金所に誤って進入された場合はこちらのレーンをご利用ください。



ETC専用化等の導入目的

- 空いている時間帯や経路の割引など柔軟な料金設定が容易となり、混雑を緩和してお客さまの生産性向上に寄与
- 料金所係員の人員確保が困難になる中、ETCを活用することにより料金所の機能を維持
- お客さまと料金所係員の接触機会を減らし、感染症リスクを軽減等

ETC専用料金所



ETC専用化等のロードマップ

	都市部において概成						
	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2030年度頃
都市部 (近畿圏) (※1)		導入準備 (※2)	近畿圏 (京阪神地区及び京奈和道の内側) 数カ所導入 → 順次拡大 (7~8割程度)	順次拡大 → 全線			
地方部		導入準備 (※2)	数カ所導入 → 運用状況や各地域の特性等を考慮しつつ順次拡大	全線			

※1 2025年4月に開催される予定の「大阪・関西万博」への影響も考慮し、適時変更の可能性があります
 ※2 カメラ等の設置や関係機関との協議等
 ※3 導入後の運用状況、ETCの普及状況、関係機関との協議等により、適時変更の可能性があります

ETCの普及促進

ETC車載器購入助成キャンペーンの実施



ETCパーソナルカード

クレジットカードをお持ちでない方でもデポジット(保証金)を預託いただくことで、ETCカードをご利用いただけます。

ETCパーソナルカード



観光振興と繁忙期の渋滞緩和の両立を目指して

観光振興と、観光需要の分散・平準化に向けて
 -ドライブパスの利便性と魅力の向上-

ETC車限定で対象エリアの高速道路が定額で乗り降り自由となるドライブパス(周遊パス)をますます便利に使いやすくするため、以下の取り組みを行っていきます。

- (1) 周遊パスの通年販売
- (2) 全国の周遊バス検索サイトの導入
- (3) NEXCO 3社での共通会員制の導入
- (4) 平日利用のETCマイレージポイント追加付与

また、一層の利用拡大を図るため、当社初の取り組みとして、2024年3月より観光施設チケットとドライブパス(周遊パス)をセットにしたプランの販売を開始しました。



二輪車定率割引がより使いやすくなりました

観光利用の多い土日祝日におけるツーリング需要を喚起し、二輪車の利用促進や地域の活性化等を目的とした「二輪車定率割引」について割引対象となる走行を見直しました。

二輪車定率割引「速旅」



割引対象走行の見直し

各インターチェンジ相互間の1回の走行距離が「100km」→「80km」を超える走行へ見直し

オーバーツーリズムの未然防止・抑制に向けて
 -休日割引対象日から新たにシルバーウィークを除外-

交通混雑期等における交通分散の観点などから、休日割引には適用除外日を設定しています。2024年度以降はシルバーウィーク(9月の3連休等)も適用しないこととしています。高速道路の渋滞対策にご理解・ご協力をお願いします。

2024年シルバーウィークの休日割引適用除外日

2024年9月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					

適用除外日の最新情報は当社ウェブサイトをご確認ください

観光スポット × 高速道路網

お国じまんデジタルラリー

各府県が選ぶ「お国じまん」の観光地やSA・PAに設置したGO!IMANスタンプを集めて応募すると、抽選でご当地産品等のプレゼントがもらえる「お国じまんデジタルラリー」。高速道路網を活用した地域への誘客促進・観光振興を行っています。

キャンペーン公式サイト



多様化する勤務体系への対応や高速道路内の交通分散を図るために

通勤パスを試行 (香川県・長崎県内の一部区間)

多様化する勤務体系への対応や高速道路内の交通分散を図ることを目的として、ETC車限定の通勤パスを試行しています。



通勤パスとは

事前に車種・区間を指定してお申し込みいただくと、曜日や時間帯にかかわらず、月初から月末までの1ヵ月間、1日3回までの走行に限り、指定区間内の料金を最大50%割引の通行料金でご利用いただける割引です。

深夜割引適用待ちの車両の滞留、トラック運転者の負担軽減のために

深夜割引の見直しを行います

深夜割引適用待ちの車両の滞留やトラック運転者の負担軽減等のため、2024年度を目処に割引内容を見直す予定です。具体的な割引の見直し運用開始時期等については、改めてお知らせいたします。

見直しの概要

- 深夜割引適用時間帯に「走行した分のみ3割引」に変更
- 深夜割引適用時間帯を「22時~翌5時」に拡大
- 上記見直しに合わせて、400km超の長距離通減制を拡充

voice

ドライブパスをきっかけに

四国支社管内のドライブパスの企画・運営を担当しています。四国4県、(一社)四国ツーリズム創造機構と連携したドライブパスを通じて、より多くのお客さまに高速道路を使って地域のあちこちを訪れていただけるようなきっかけを作り出しています。ドライブパスによって更なる観光振興や地域活性化のお手伝いが出来たら嬉しいと思っています。



四国支社 保全サービス事業部 料金課 栖原 志歩



すべての皆さまに、快適な休憩施設を

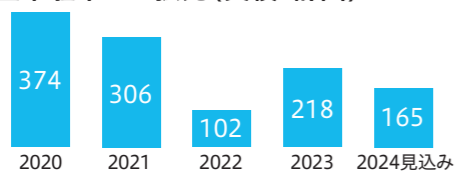
駐車場の混雑対策 — 物流事業者への支援 —

大型車の駐車マス拡充

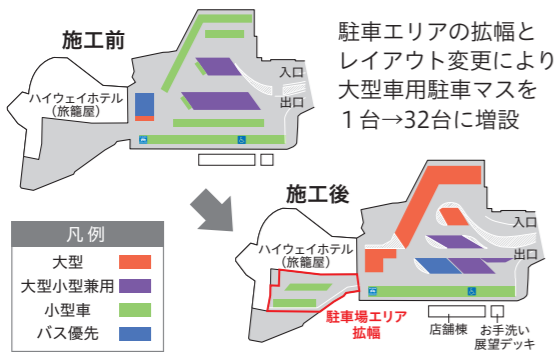
長時間駐車等により、深夜帯を中心に大型車の駐車マスが不足し、混雑が発生していることから、大型車の駐車マスを拡充し、休憩施設の機能向上に取り組んでいます。

2024年度は、165台を拡充予定です。

大型車駐車マス拡充(実績・計画)



関門道 壇之浦PA(下) 駐車マス改良



ダブル連結トラックへの対応

深刻なトラックドライバー不足に対する物流事業者のニーズ等を踏まえ、ダブル連結トラックに対応した駐車マスの整備を進めています。



25mダブル連結トラック



山陽道 三木SA(上) ダブル連結トラックマス整備状況

大型車ドライバーのより確実な“休憩”機会を確保する実証実験 — 大型車の短時間限定駐車マス —

長時間駐車車両の存在により、駐車ができずにSA・PAを出ていく大型車が多い休憩施設に、60分以内の駐車とする大型車用の駐車マス「短時間限定駐車マス」を整備することで、

休憩機会の変化や、周辺休憩施設を含めた混雑状況、効果的な整備位置などを検証しています。今後、実証実験の状況を鑑み、厳格な監視体制や駐車時間を判定するための画像処理技術の導入など、さらに必要な対策を検討していく予定です。



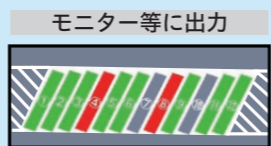
大型車 短時間駐車マス 運用開始します
 トイレ・食事等短時間のご利用をお願いします。
 短時間駐車マス目印はこちら

短時間 P 大型車

古賀SA(下り線)
 ← 至 福岡

短時間限定駐車マス目印

駐車時間を判定するための画像処理技術のイメージ (一部休憩施設で導入予定)

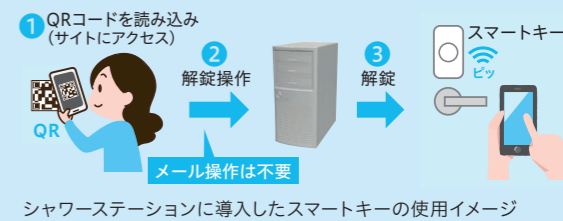


シャワーステーションの充実

当社では、高速道路をご利用されるお客さまの疲労回復、くつろぎの提供として、11カ所のSA・PAにシャワーステーションを設置しています。



また、スマートキー（電子鍵）による予約システムの導入を拡大しており、順番待ちの時間をショッピングなどで有効にご利用いただけるよう、利便性の向上を進めています。



無人PAへの営業店舗の設置

高速道路を利用されるお客さまの更なる利便性の向上を目的に、(株)セブン-イレブン・ジャパンと業務提携を締結し、SA・PAにおけるサービスの拡充や新しい取り組みを協力して実施しており、その一環として、無人PAへの営業店舗の設置を行っています。



東九州道 大分松岡PA(上下) 2023年11月30日オープン

お手洗いのリニューアル

お客さまに快適で安心してご利用いただけるトイレを目指して、自然光を取り込んだ明るい空間の演出や、バリアフリー化、女子トイレ内へのパウダーコーナーの整備などに取り組んでいます。



お子さま連れのお客さまへ



バリアフリー化



インバウンド対応



地域とつながるウェルカムゲート



設置箇所数：2024年3月末時点

就労支援 × 高速道路の維持管理

当社グループでは、障がいのある方の活躍を支援することを目的に、高速道路の維持管理に関する軽作業等を障がい者支援施設に委託しています。

中国道 安佐SA(上)における草花の植込み作業 (西日本高速道路メンテナンス中国(株))



店舗リニューアルによる魅力の進化

地域の特色を活かし、より楽しくより快適にご利用いただけるようSA・PAのリニューアルに取り組んでいます。

長崎道 大村湾PA(上) 2024年4月19日リニューアル

新設したテラスの名称は、「青い庭」。東彼杵町と連携した地域共創プロジェクトとして、一般公募のうえ名称を決定しました。

地域の皆さまの想いが詰まったこの場所が、地域や、長崎を訪れる人々へ、新たな価値を提供する場、そして地域のランドマークとなるよう、皆さまの想いを紡ぎながら、新たな共創ストーリーを育んでまいります。



Voice

テラスに座ると目の前に広がる青い海と青い空、手が届きそうな「青い庭」を眺めつつティータイムをして過ごせる場所にしたいと思い、命名しました！

東彼杵町
陶芸家
小玉 恭子さん

Voice

町内外から素晴らしいネーミング案を多数お寄せいただき、感謝申し上げます。「青い庭」を含む新たな大村湾PAが、まさに人(People)と地域(Area)をつなぐ東彼杵町らしい「PA」として発展することを期待しています。

東彼杵町
岡田 伊一郎 町長

テラス「青い庭」からの眺望

全国の人と地域をつなぐSA・PA

地元の特産品 × キャラクターイベント ピクミンテラス in 宮島SA

山陽道 宮島SA(下)において、任天堂(株)のキャラクターである「ピクミン」をテーマにしたイベントを開催。SA・PAを単なる休憩場所や通過点にしておくのではなく、SA・PAが目的地となる魅力的なイベントを開催することで、高速道路網を活用した広域的な誘客を行い、全国の人と地域をつないでいきます。



Voice

地域の魅力とキャラクターの魅力が掛け合わされたことで、多くの方が広島・宮島を訪れるきっかけづくりができました。多くのお客さまで賑わう宮島SA(下)を見て、高速道路が持つ「つなぐ力」を感じています。

西日本高速道路サービス・ホールディングス(株)
店舗営業部 営業戦略課 横江 祐介

宮島の特産品である
しゃもじを運ぶピクミン



広島名物もみじまんじゅうを運ぶピクミンたちの立体展示



地域に根差した高速道路の付加価値

西日本管内24府県の魅力ある“すぐれもの”を発掘・お届け



NEXCO西日本
オンラインショップ

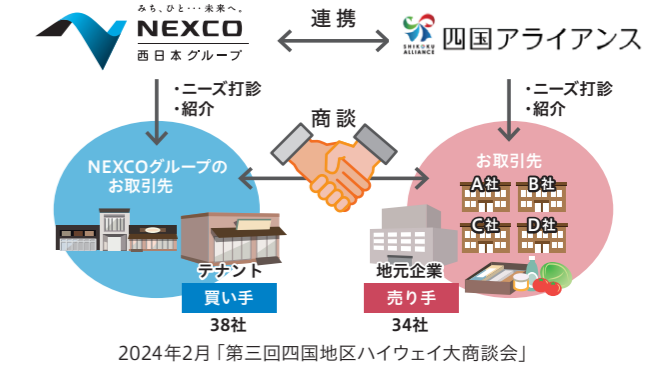


西日本各地でこだわってつくられた魅力ある“すぐれもの”や、「美味しかったけれどまた買いに行くには遠い」といったSA・PA限定商品をお求めのお客さま向けに、オンラインショップを運営しています。商品に込められた地域の魅力やこだわりを皆さまにお届けすることで、西日本地域を応援します。

高速道路を通じたビジネスマッチング

金融機関や自治体等と協力し、地域の企業とSA・PAの商業施設を運営するテナント事業者をマッチングする商談会を継続して実施しています。

地元企業との連携を強化することで、新たな地域の逸品や、地域の食材を活かした食事メニューを開発するとともに、企業が生産している地域産品の販路拡大を目指しています。



地域情報のPR

高速道路をご利用されるお客さまが周辺地域の観光資源や情報に触れていただける環境を整備し、併せて各地域とも連携し、地域の活性化に寄与するため、多目的スペース・情報カウンターを展開しています。

自治体との包括的連携

当社は、地域社会の安全・安心の向上と活性化、高速道路の利便性向上と利用促進を図るため、自治体との連携協定を締結しています。



高松道 豊浜SA(下) 多目的スペース

お食事・お土産
×
学校・地元企業

地域の学校・地元企業と連携し、実際にSA・PAで販売する商品の企画開発を通して、学生の皆さまに、地域の魅力発掘と積極的な情報発信を経験していただく場を提供する活動に取り組んでいます。

(左) 熊本県立南稜高校との共同開発
(右) 兵庫県域での高校生考案レシピコンテスト



地域づくりのプラットフォームを目指して

高速道路は、これまで、地域にある観光資源等の既存市場に対してその効果を発揮してきました。これからは、既存市場に依存するだけでなく、地域の新しい価値を引き出す役目も担っていく必要があると考えています。当社グループは、地域共創活動により、高速道路の持つ機能やサービスを活用し、地域とともに新しい価値を創造する「地域づくりのプラットフォーム」を目指しています。

地域共創



旅マエ

都市と地域をつなぐ 『紡ぐマルシェ』 ガーデنز千早 (福岡)

福岡市東区にある複合商業施設「ガーデンズ千早」(高橋(株))と連携し、人や地域との関係創出を目的としたマルシェ等のイベントを開催しています。



マルシェが
目指すもの

「関係」を育む体験型マルシェ

人々の移動の可能性を拓き、グローバル×ローカルのつながりを持つツナガルとNEXCO西日本が共同で九州の食の魅力を提供。「人生を変える出会いづくり」を中心とした体験を提供し、食や食文化が持つ感動を共有し、コミュニティ形成を目指します。

共創体験がつくる「熱量資源」

地域の食に関するワークショップや地域をテーマにした絵本づくりなど、「食」をきっかけに双方への交流意欲を引き出します。これを「熱量資源」として捉え、交流・支援・購買・共創といった長期的な関係性を構築します。

地域を思いやる
「熱量」を育てる

ツナガル(株)
竹林 謙
プロデューサー

「紡ぐマルシェ」イベント概要

日時:2023年10月14日・15日
出店:大分県中津市・佐伯市・竹田市を中心とした飲食・物販事業者・生産者
主催:ツナガル(株)
共創パートナー:NEXCO西日本九州支社
協力:ガーデンズ千早・中津市・佐伯市・竹田市

これからの高速道路が創る移動の未来。それは地域間の共助関係だと考えます。そのきっかけとなるつながりが生まれる場の設計を、ツナガル社の体験デザインチームとNEXCO西日本で共創しています。「紡ぐマルシェ」は、食を通じた体験型イベントとして、最初の取り組みです。地域間交流の源泉になるのは、お互いのことを思いやる「熱量」であると定義し、この熱量を蓄え、育てることで、価値流通をつくることを目指し、これからもNEXCO西日本と共にチャレンジしていきたいです。

旅ナカ

出発地と目的地の“あいだ”の価値 『情報の箱』 九州道 基山PA(上)

長距離移動中のお客さまに対し、新しい高速道路利用体験を創造するため、地域と連携し、新たな空間サービスの実証実験を行っています。

PAの利用者に「箱の中での体験」を情報としてどのように提供できるかをコンセプトに実証実験を行っています。体験自体を増やすことに難しさを感じますが、箱自体が看板のような役割を担い、基山町・情報の箱の取り組みを知っていただくきっかけになっていることをプラスに捉え、実態も興味しながら、体験と情報を発信できるように連携していきたいと考えております。

体験と
情報を発信

九州アイランドワーク(株)
馬渡 侑佑
代表取締役社長



箱の中での体験

- リモートワーク
- 家具のショールーム
- 地域の選書本
- 基山町の情報 DEEPIYAMA



当社グループにおける『地域共創』とは、多様化の進む様々な地域課題に対し、私たちと地域の資源を活かし合い、お互いが汗をかきながら課題解決を目指すことで、持続可能な地域づくり(=地域の成長)にチャレンジする活動です。社内チームである地域共創ラボでは、高速道路の“つなぐ力”や私たちが積み重ねてき

地域共創ラボ

た地域の皆さまとのつながりを、旅の途中であるSA・PA、つまり「旅ナカ」でのサービスだけでなく、日常生活視点での「旅マエ」や、地域価値創出視点での「旅サキ」にも活かすことができると考えています。

地域の皆さまとの共創により人々の移動(旅)の可能性を広げてまいります。

お互いのノウハウ・リソースを持ち寄り、解決困難な地域課題に取り組むことで、新しい価値を創出



九州支社
総務企画部
企画調整課
久保 友佑



九州支社
地域共創
担当部長
濱野 昌志



旅サキ

地域の誘客キャンペーンに 偶発性と体験性を 『旅っチャ』(各地のSA・PAで展開)

旅先で使えるお得なグルメチケット等が入った「運試し型のチケット販売機」をSAに設置し、クルマ旅での偶発性と体験性を演出するキャンペーン「旅っチャ」。高速道路網を活用した広域的な誘客をベースに、自治体や地元企業の皆さまと企画を共創し、地域の魅力にお得にアクセスしていただく機会を提供しています。



和歌山県
みなべ町

日本一の梅の里であり南高梅誕生の地への誘客を目的とした「旅っチャ」は、多くの皆さまに最高級梅干しや地域食材などを知って頂く良い機会となりました。関西圏では初の試みで不安もありましたが、観光名所や施設が多く存在する和歌山県において、ちょっと寄り道キャンペーンは成果が見えた取り組みと感じています。今後もみなべ町を盛り上げるためNEXCO西日本と協創したいと思います。



地域の食材を
知っていただく
機会になりました

和歌山県 みなべ町
うめ課
平喜之 課長



愛媛県
伊予市

伊予市中山町は栗の産地として有名ですが、冬季の客足が減ってしまうという課題があります。そこで今回、中山スマートICの利用促進と、中山町への観光誘客を目的に、「道の駅なかやま」と共同でキャンペーンを実施しました。スマートIC利用者向けのガラポン抽選を企画し、多数のお客様にご利用いただきました。事業を通して、誘客促進の手がかりを得られたので、今後の施策にも生かしていきたいです。



伊予市 商工観光課
宇都宮 真唯 主任

トップメッセージ
グループ理念CSR活動方針
私たちに
安全・安心
ネットワークの強化
快適に、豊かに
特集
サステナビリティへの基盤
データ



茨木技術研修センターでは、グループ会社と合同で新入社員向け「道路点検実務実習」を実施。実際に現場に精通しているグループ会社社員の知見を活かし、保全業務及び道路点検業務について、より一層の理解を深める。

サステナビリティへの基盤



経営環境の変化に応じて
持続的に進化する企業を目指して



管理職登用前の女性社員を対象とした「女性リーダーエンカレッジプログラム」。先輩社員や役員とのディスカッションを通じて、管理職登用への不安を解消する取り組み。

人とともに



社会と社員の信頼に応え、進化し続けるグループへ

人権

当社グループでは、社会・社員の信頼に応えるべく、「人権問題啓発推進の基本方針」を策定し、当社グループが一丸となって人権尊重・人権啓発に取り組むことを宣言しています。

また、本社及び支社に「人権問題啓発推進会議」を設置して、当年度の人権啓発活動を総括するとともに、次年度の活動計画を策定しています。

人権問題啓発推進の基本方針 (NEXCO西日本グループ)

「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である」(世界人権宣言)との認識のもと、私たちは、一人ひとりの人権を尊重し、あらゆる差別をなくすために人権問題の啓発に取り組み、企業としての社会的責任を果たしていきます。

- ・人権尊重の意識を常に持ち、誠実・公正に行動します。
- ・人権問題に対する正しい理解と認識を深め、人権意識の高揚を図るため、啓発活動を推進します。
- ・人権を尊重し、差別をしない、させない、許さない、見て見ぬふりをしない明るい職場づくりに努めます。



人権問題啓発推進会議の様子

人権問題啓発推進の主な取り組み

- ・人権ガイドブックや社内報による啓発
- ・人権週間中のメールマガジンの配信
- ・各種社員研修における講義
- ・グループ会社との連携(出張研修等)
- ・外部講演会等への社員の参加を促進
- ・企業活動における人権状況の点検

全社員活躍

ダイバーシティや働き方改革、DXの推進により、10年先、20年先の未来を担う人財を創出し、すべての社員が、健康でイキイキと働くことができる職場環境を創ります。

全社員活躍へ



ダイバーシティ
働き方改革

NEXCO West
ACE DXs



人財育成

「安全・安心」を追求し「現場力」あるプロフェッショナル人財、「新しい価値」を実現するイノベティブ人財を育てます。

人財育成の見える化

- ・人財マネジメントの高度化 (人財データの統合、成長把握のツール)
- ・人財育成ロードマップの策定 (ジョブプロローションの見直し等)

プロフェッショナル人財の育成

- ・研修体系の再構築 (研修の全体計画:内容・時期等)
- ・自ら学ぶシステム作り (コンテンツの充実及び電子化 eラーニング、研修の希望選択制度)

イノベティブ人財の創出

- ・多様なキャリアパスとチャレンジ、社外交渉・協創

キャリア自律支援

社員の多様な働き方と、自律的なキャリア形成を応援します。

多様な人財活躍

- ・女性活躍促進ロードマップの策定 (女性管理職比率の向上)
- ・シニア活躍プラン
- ・キャリアとライフの自律研修、育児介護等ライフイベント面談
- ・男性の家事・育児参加促進 (男性育児休業取得率向上)

自律的な働き方支援

- ・時間と場所を選ばない仕事・働き方
 - ・柔軟な勤務時間・休暇制度(パートタイム勤務等)
 - ・自律的なキャリア選択を可能とする勤務地のあり方検討(勤務地域・単身赴任問題)
 - ・デジタルツールを活用した柔軟な働き方(テレワーク等)

働きやすい環境

コミュニケーション豊かで、活力ある職場・社員を育みます。

明るい職場づくり

- ・コミュニケーション促進 (仕掛け作り、世代間ギャップの解消)
- ・ハラスメント防止:意識啓発・研修 (コンテンツ拡充、電子化 eラーニング)
- ・社員からの相談体制 (相談窓口、One On Oneアプローチ)

健康経営

- ・心身の健康増進 (心と身体の相談体制構築、公認心理師の配置等)

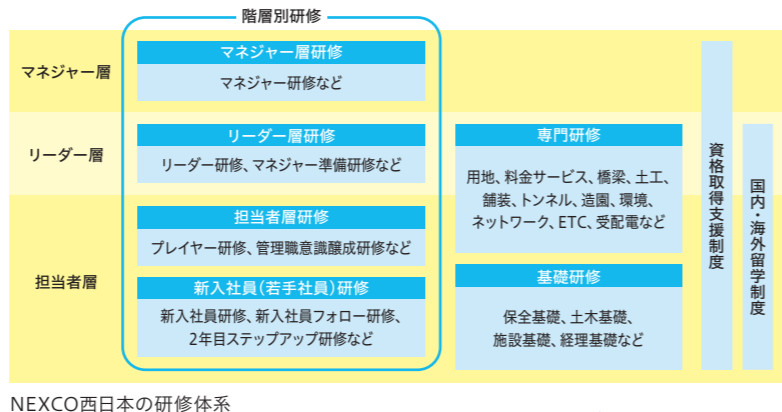
※NEW ACE DXs: NEXCO Westの頭文字と「Advanced Challenge and Evolution will drive DX strategy(先進的な挑戦と進化がDX戦略を推進する)」からなる当社グループのDX戦略の略称

人財育成

当社グループでは、実際の業務におけるOJTや階層別・専門分野別の幅広い研修を通じて、知識・能力を高め、社員の自律的な成長を支援するとともに、グループ会社間における人材交流も実施しながら、より実践力を備えた人財の育成に努めています。

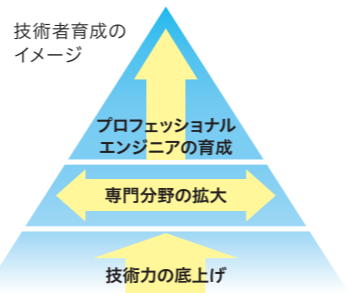
プロフェッショナル人財の育成

当社では、現場主義に徹して、自ら行動し、自己変革し続けるプロフェッショナルな人財の育成のため、キャリアや目的に応じた様々な研修を実施しています。さらに、資格取得支援制度や留学制度、eラーニングの導入など、社員の自律的な成長を積極的に支援しています。



専門技術者の育成

100%の安全・安心の追求や道路資産の永続的な健全性確保を目指し、専門技術力を有する人財を継続的に育成していくための研修施設として、茨木技術研修センター（I-TR：アイトレ）を開設しています。I-TRでは、主として若手技術者・中堅技術者を対象とした基礎研修及び専門研修を行っており、全社的な技術力向上を図るとともに、特定分野に長けた技術者の育成を行っています。また、料金收受スタッフや新入社員研修など、当社グループの様々な研修でI-TRを活用しています。



茨木技術研修センター（I-TR：アイトレ） 劣化損傷した道路構造物や、通信設備・料金機械設備の模擬設備などを設置しており、点検～診断、設備故障や料金收受など、高速道路の総合的な「体験型研修」を実施する研修施設です。



Voice

当社グループの最大の資産は「社員」

当社グループにとっての最大の資産は、高速道路を建設し管理するノウハウの集合体である社員そのものです。前身の日本道路公団時代から続くDNAと、高速道路の運営ノウハウを引き継ぎ、時代の変化に合わせて、更に進化させ未来を切り拓いていく「人財」を育成することが、当社グループの、ひいては社員一人ひとりの成長にとって重要と考えています。



人事部 人事課 人財育成担当課長 南 宏明

働きやすい環境

明るい職場づくり

当社では、社員が健康でイキイキと働く環境をつくるための取り組みを積極的に行っています。若手社員を対象としたOne On Oneアプローチや、誰でもいつでも利用しやすい相談窓口を設け、様々な場面において、社員のコミュニケーション促進を後押ししています。

職場環境改善の推進

オフィスの生産性や魅力の向上を図るため、ゆとりあるスペースの確保によるコミュニケーションの活発化、業務の効率化等に資する職場環境改善を行っています。



本社 打合せ&カフェスペース

キャリア自律支援

多様な人財活躍

ダイバーシティ推進ビジョン
「違いを尊重し、個々が活躍し、進化し続けるチームへ」

当社グループでは、「違いを尊重し、個々が活躍し、進化し続けるチームへ」をダイバーシティ推進ビジョンに掲げ、社員一人ひとりの違いを尊重し、個人がもつ力を100%発揮できるよう、環境を整備しています。多様な視点を取り入れることで、イノベーションを起こすとともに、会社を取り巻く様々な環境変化にしなやかに対応できる組織づくりを進めています。

社員の多様な働き方を支援する取り組み

当社では、社員一人ひとりの仕事と生活が充実し、性別、年齢、ライフステージや価値観の違いなどにかかわらず、多様な人財が活躍できるよう、制度づくり・風土づくりを進めています。

誰でも参加可能な産休育休前・職場復帰前ガイダンス／イクボス研修（管理職対象）／介護セミナー／キャリア相談窓口（全社員利用可能） など

女性活躍促進に関する取り組み

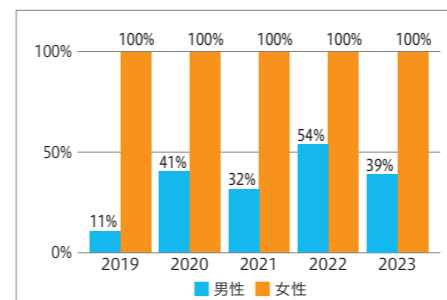
当社では、女性社員が自分らしく働けるように、キャリア形成を支援しています。

若手女性キャリアデザインフォーラム（他企業共催）／NEXCO3社女性交流フォーラム／女性リーダーエンカレッジプログラム／女性の健康に関するオンライン相談プログラム など

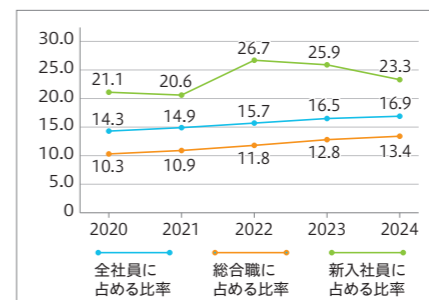
仕事と生活の両立支援制度（NEXCO西日本）

両立支援面談制度	本人または配偶者の妊娠時・休暇前・復帰前後における、直属の上司によるきめ細かな面談の実施を定めた制度
育児休業	3歳までの子を養育するときに取得できる休業
部分休業	小学校3年生までの子を養育するため、1日2時間まで取得できる短時間勤務制度
配偶者出産休暇	配偶者の出産時に3日まで取得できる特別休暇
子の養育休暇	配偶者の出産時に、出生した子または未就学児の兄弟を養育するために5日まで取得できる特別休暇
子の看護休暇	小学3年生までの子を看護するため、年間5日まで取得できる特別休暇
介護休業	対象家族を介護するため、通算184日まで取得できる休業
介護短時間勤務	対象家族を介護するため、3年以内で1日2時間まで取得できる短時間勤務制度
介護休暇	対象家族を介護するため、年間5日まで取得できる特別休暇
転勤特例制度	出産・育児・介護に際し、本人の申請により、一定期間勤務地を限定することができる制度
時差出勤制度	始業時刻を午前8時から10時の間で選択できる制度
テレワーク制度	自宅やサテライトオフィスなど、事業所以外の場所でも勤務できる制度
ジョブリターン制度	結婚・育児・介護等を理由に退職した社員が、希望により、一定の条件のもとで復帰できる制度

※一部制度の利用には要件があります



育休取得率（NEXCO西日本）



女性社員の比率（NEXCO西日本）



女性リーダーエンカレッジプログラム（管理職登用前の女性社員を対象としたワークショップ）

Voice

家事と育児とキャリアアップ

私も妻も当社で管理職をしており、夫婦二人で子育てをしながらキャリアアップしていくことを目指しています。定年退職までの長い期間の中で、お互いの仕事と家庭へのコミット量が平等となるよう、仕事に対してのアクセルを踏む時期を調整しています。

妻は出産後に育児休業や部分休業を取得しました。現在は私が時差出勤制度や週1回のテレワークなどを利用して家事・育児の8割を担い、妻がアクセルを踏み込むための支援をしています。育児をしながら夫婦二人ともキャリアアップすることは簡単なことではありませんが、効率的な業務マネジメントで仕事の生産性を向上できるように、部下に主体性を持たせる“支援型のリーダーシップ”の実践を心掛けています。

【当事者の声】



関西支社 京都高速道路事務所 改良第一課 課長 友村 圭祐

Voice

達成手段は1つではない

高速道路の安全・安心を守る体制を維持していくためには、社員一人ひとりの生活が充実すると共に、主体性をもって楽しく仕事ができていることが重要だと考えています。仕事の目的を理解し作業の意味を考えながら取り組むと、その目的達成のための進め方は1つではない場合に気づくこともあります。主体性をもって仕事に取り組むことは、生活リズムに合致した仕事の進め方の選択にも繋がり、結果、生活も仕事も充実していくものだと思っています。

【上司の声】



関西支社 京都高速道路事務所 所長 保脇 貴文

環境経営の推進



地球とともに歩む

当社グループは2008年に「環境方針」を制定し、2011年からは5カ年の中期計画として「環境基本計画」を策定して、環境保全に取り組んでいます。

環境基本計画2025では、環境方針の柱である「脱炭素社会の実現」「循環型社会の形成」「自然と共生する社会の推進」の3テーマで構成し、環境管理会議において、毎年度、計画達成に向けた具体目標（アクションプラン）を立て、実績を評価しています。



環境方針

西日本高速道路株式会社は、事業活動が環境に及ぼす影響を真摯に捉え、高速道路事業者としてまた社会の一員として、社員の一人ひとりが、環境の保全・改善に積極的に取り組み、持続可能な社会の形成を目指します。取り組みの実施にあたっては、環境側面に関係する法規制等を遵守し、環境目的・目標を定めるとともに、それらを定期的に見直すことで継続的に改善します。

脱炭素社会の実現に取り組めます

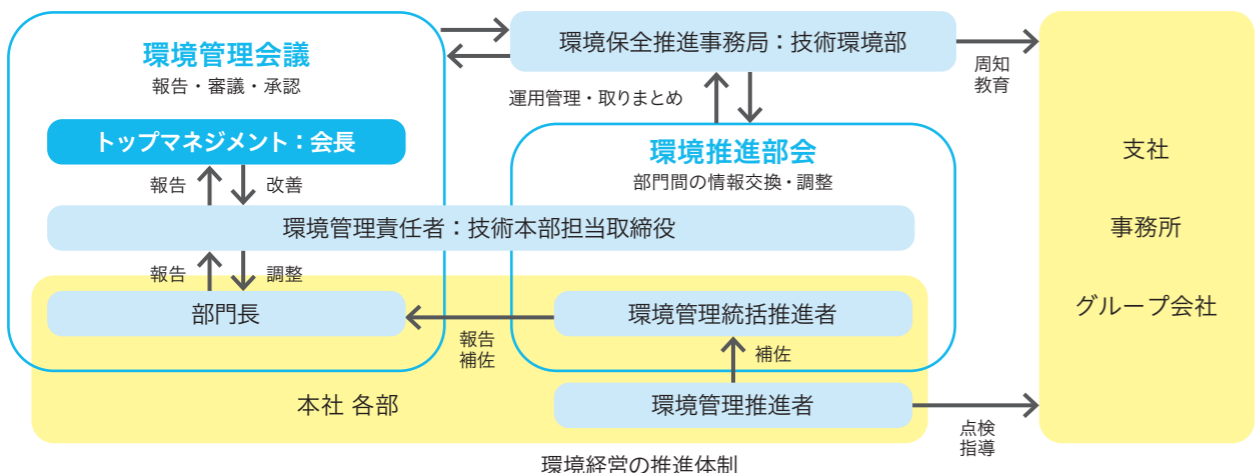
未来を担う世代が生活の豊かさを実感できるよう、道路空間を活用した省エネルギー、創エネルギー及び緑化の推進に取り組めます。

循環型社会の形成に取り組めます

天然資源の消費を抑制し、環境への負荷を低減するため、廃棄物等の発生抑制（リデュース）、循環資源の再利用（リユース）及び再生利用（リサイクル）に取り組めます。

自然と共生する社会の推進に取り組めます

人と生きものが豊かに暮らせる社会を目指し、自然環境や人々の生活環境の保全と創出に取り組めます。



Voice

社会インフラを担う企業としての責任

地球環境の保全に対する企業の責任は年々増加しています。高速道路を主体とする当社グループの事業は、自然環境・生活環境と密接にかかわるため、2008年から環境方針を掲げ、様々な取り組みを推進してきました。カーボンニュートラルに向けた取り組み、気候変動に伴い激甚化する災害への対応力強化など、最新の技術や知見を取り入れながら、社会インフラを担う企業として、不断の努力を続けてまいります。



技術本部 技術環境部 部長 上田 武志

当社グループの 環境経営の取り組み



※ ZEB: Net Zero Energy Buildingの略称で、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギー消費量が正味ゼロまたはマイナスの建築物。

地域の自然環境 × 高速道路会社

つなぎの森

2008年度から西日本各地の地方自治体と協定を締結し、森林保全に取り組んでいます。当社グループの社員が自治体や森林組合の皆さまと下草刈りや植樹を行い、地域との交流やCO2吸収源確保に貢献するとともに、社員が環境共生の大切さを学ぶ機会となっています。



建設予定地の希少植物の保護

自然環境保全を目的として、関西支社新名神京都事務所では、武田薬品工業(株)京都薬用植物園と連携し、希少植物の保護を行っています。2023年7月には、京都市民とともに、植物園内の「市民の庭」にコムラサキを移植しました。



脱炭素社会の実現

料金所への太陽光パネル設置

太陽光発電設備を料金所やSA・PA、高速道路の遮音壁等に設置し、その電力を道路設備やSA・PAの運営に活用しています。

照明のLED化

当社グループが使用する電気の3割以上は、高速道路のトンネルに設置された照明によるものです。これらをすべてLED化すると、トンネルでの電気使用量の約3割の削減が見込まれます。このため、当社ではトンネル照明のLED化を推進しています。

電気自動車（EV）急速充電設備の整備

クリーンエネルギー車の普及に対応したインフラ環境整備として、電気自動車(EV)をご利用のお客さまの更なる利便性向上を目的に、当社管内のSA・PAへ急速充電設備の整備を加速しています。



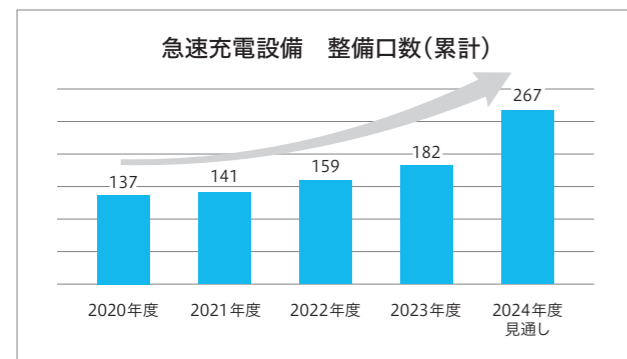
料金所の屋根に設置した太陽光パネル



トンネルLED灯



急速充電設備



カーボンニュートラルの実現に向けて

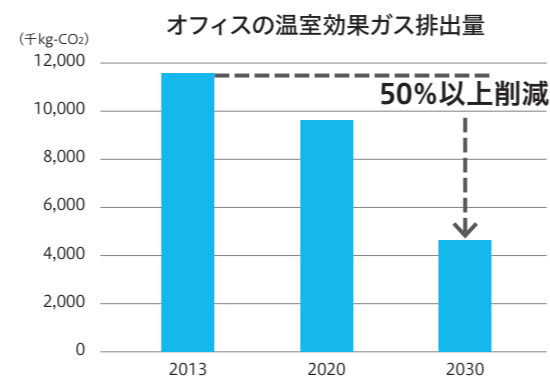
2030年度までに温室効果ガス排出量を50%以上削減することを目指し、2023年3月に当社オフィスを対象とした温室効果ガス排出削減等の実施計画を策定しました。現在、事業に関しても、政府実行計画を踏まえた削減計画の策定を進めています。



2030年度目標の主な取り組み

1. 社屋の50%以上に太陽光発電設備を設置
2. 新築建築物の平均をZEB Ready相当へ
3. 社用車は電動車へ
4. 電力の60%以上を再生可能エネルギーに
5. LED照明の100%導入

社屋上への太陽光パネル設置
(九州支社 宮崎高速道路事務所)



循環型社会の形成

事業活動に伴って排出される建設廃棄物・建設発生土などの現場内での再利用を推進し、現場で再利用しきれないものについても、再資源化工場や他の工事現場への持ち込みを進めるなど、最終処分(埋め立て)をできるだけ少なくしています。

今後とも建設副産物の3R (Reduce:削減、Reuse:再活用、Recycle:再資源化)に取り組んでいきます。



建設発生土の受け入れ

自然と共生する社会の推進

エコロードの推進

当社が推進している『エコロード』とは、「自然環境に配慮した道づくり」のことであり、日本道路公団設立当初より、のり面の緑化や既存林の保全など、自然環境の保全に向けた取り組みを行っています。

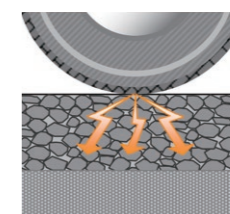
『エコロード』の取り組みの一つとして、自然環境が豊かな地域で道路を建設する場合は、その地域に自生する樹木の種子を採取して育てた「地域性苗木」を高速道路ののり面に植樹しています。地域性苗木は、地域の遺伝子を持つことから、「遺伝子の保全・種の保全・生態系の保全」という生物多様性の保全に寄与しています。

高機能舗装や遮音壁による騒音対策

当社グループでは、騒音の緩和を道路事業者の重要な責任の一つと捉え、沿道地域の土地の利用状況などを踏まえながら、高機能舗装の敷設や、遮音壁の増設・かさ上げ等の改良に努めています。今後も、必要に応じて沿道環境の保全に努めていきます。



(上) 生育中の地域性苗木
(左) 開通後13年経過し地域性苗木が樹林化した高速道路ののり面
(新名神高速道路 信楽IC付近)
(右) 地域性苗木の植栽バック



高機能舗装
(空気が舗装内に逃げることで騒音が生じにくい)



EV急速充電設備の整備で、カーボンニュートラルを加速させる好循環を

2024年1月にEV急速充電設備を新規整備した中国道 王司PA(上)では、お客さまが使いやすいようにユニバーサルデザイン及びバリアフリーに対応した設計としております。急速充電設備は、EVの普及状況やお客さまの利用状況、エリアのレイアウトなどの条件を踏まえながら、設置場所・口数等を充電施設整備事業者と決めております。充実した充電インフラの整備により、EV普及を後押しすることができれば、カーボンニュートラルを加速させる好循環につながれると思っています。これからもEVユーザーの利便性向上に寄与できるよう、充電整備事業者と連携し、整備を進めてまいります。



中国支社 建設・改築事業部 施設改築課 日笠 晶理





社会インフラを担う企業として、ステークホルダーの皆さまへの責任を果たすために

内部統制

経営の健全性、透明性の確保

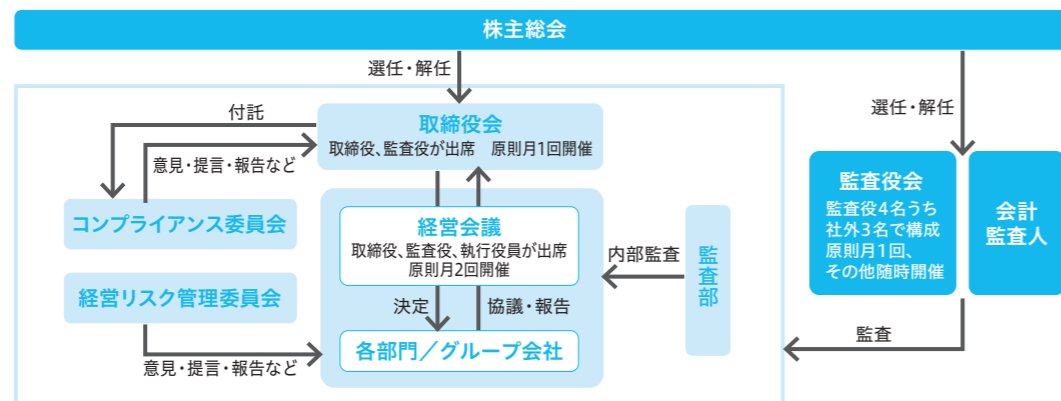
当社では、重要な業務執行に関する事項を決議するための取締役会に加えて、経営に関する重要な事項について協議し情報共有等を行うための経営会議を開催しています。

また、更なる経営の監督・監査の強化を目的として、社外取締役・社外監査役を選任し、社外における豊富な知識・経験を当社の経営・監査業務に活かすことで、経営の健全性・透明性の確保に努めています。

さらに、コーポレート・ガバナンスを充実させ、業務を適正かつ効率的に遂行するために、コンプライアンス委員会や経営リスク管理委員会などの内部統制システムを整備し、運用状況を定期的に確認することにより、経営の健全性・透明性の確保に努めています。



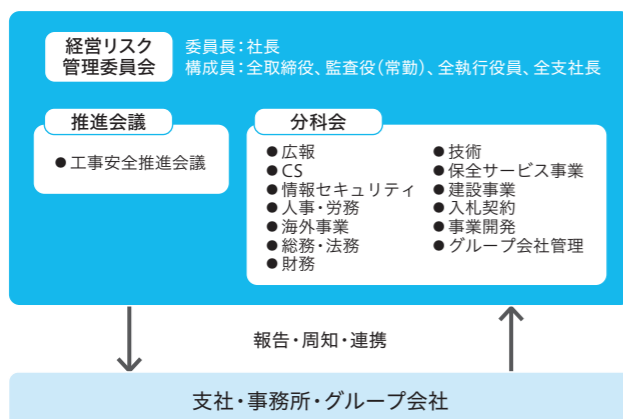
経営会議の様子



リスクマネジメント

自律的なリスク管理

当社グループの事業活動に伴うリスクについては、現場を担う事務所及び支社において、グループ会社と連携しながらリスクの洗い出しを行う等、自律的に管理していくとともに、当社グループ全体のリスクを統括的に管理する「経営リスク管理委員会」を組織し、リスクの評価・見直しや、予防措置、リスク発現時の対応状況の検証など、継続的なリスクマネジメント活動を推進しています。



工事の安全確保に向けた取り組み

重大事故リスクアセスメント

受注者が抽出した重大事故リスクについて、受発注者間で確認・協議



安全協議会活動の強化

安全パトロール等で重大事故リスク抽出箇所を重点的に点検



社員教育

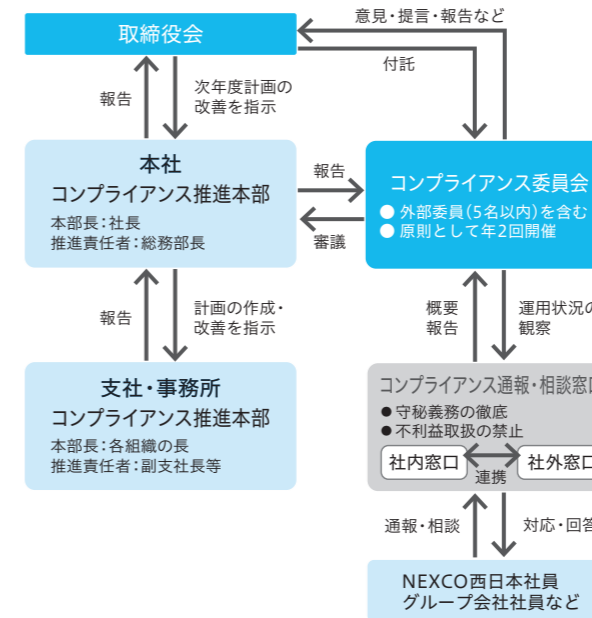
研修等を通して、工事中の潜在的な重大事故リスクに関する想像力、予見力を向上

コンプライアンス

当社では、コンプライアンスの徹底と、より高度な倫理観を確立するため、各組織にコンプライアンス推進本部を設置し、コンプライアンス推進計画の作成、実施及び実施状況の検証を行っています。

また、自律的な社内秩序の維持、不祥事の抑制・抑止を図るため、コンプライアンス通報・相談窓口を設置し、社員等からのコンプライアンスに関する通報や相談に対応しています。

さらに、公正かつ透明性の高い企業活動の実践を図るため、客観性かつ多様な知見を有する外部委員を含むコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス向上に向けた意見や提言をいただいています。



職場における相談体制

当社では、職場に職場環境相談員を配置し、業務上の悩み等も含めてコンプライアンス全般にかかる事項について、幅広く相談できる体制を整えています。

職場環境相談員

コンプライアンス (悩み・相談事項) 全般

ハラスメント (セクハラ・パワハラ等)

公正な取引

基本的な考え方

「公共調達に係る契約に関する事務を適正かつ円滑に処理し、公正性・透明性・競争性を確保しつつ会社の経営の効率化を図る」という目的達成のため、基本方針をもとに取引を行っています。



契約の基本方針

1. 競争原理と経済性の追求
2. 品質の確保と更なる向上
3. 契約機会の提供と拡大
4. 適正な契約相手方の選定
5. 法令等の遵守

契約に関する情報公表と適正な契約相手方の選定手続き

契約手続きの透明性確保のため、工事・調査等の入札・契約情報をウェブサイト内の「調達・お取引」で公表しています。

また、入札契約手続きの過程及び結果について、各支社に弁護士、大学教授などの有識者からなる「入札監視委員会」を設置し定期的に審議を受け、ウェブサイト上で審議概要を公表しています。

調達・お取引



入札監視委員会の審議概要

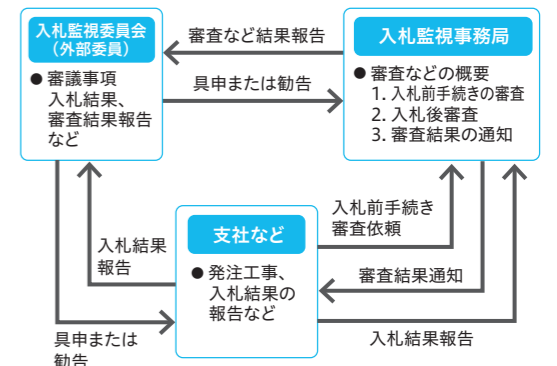


発注事務に係る綱紀保持

発注者の綱紀保持に関する規程を制定し、発注事務に対する社会の信頼確保に向けて取り組んでいます。

この規程には、社員が遵守すべき事項として、情報の適切な管理、事業者との応接方法及びこれらに抵触した事実を確認した場合の通報義務等を定めています。

また、この取り組みについて、事業者の方々からの理解、協力を得るために、ウェブサイトや入札に関する指示書でお知らせしています。



ステークホルダーとの対話

社長定例会見

当社グループの営業状況や、多岐にわたる事業への取り組みについて理解を深めていただくため、社長による記者会見を毎月開催し、メディアを通じた社会への情報発信に努めています。

記者交流会

報道機関の皆さまと当社グループ経営層の対話の場として、記者交流会を開催しています。

毎年1回、関西・中国・四国・九州・東京の各地区にて開催し、いただいたご意見を基に更なる広報活動の充実にも努めています。

事業評価監視委員会

当事業の効率性・透明性の向上を図るため、社外の有識者からなる事業評価監視委員会を設置しています。当社の高速道路事業について第三者の立場から評価をいただき、今後の事業計画に役立てています。

お客さまの声

お客さまから寄せられたご意見・ご要望等は、経営層を含む「CS推進本部会議」(隔週開催)にて議論し、経営会議へ報告する等しています。お客さまの安全・安心等の重大リスクに関わるご意見については特に注目して議論するとともに、社内でも水平展開すべきものを重点課題として選定し、抜本的な課題解決に向けた議論も行っています。



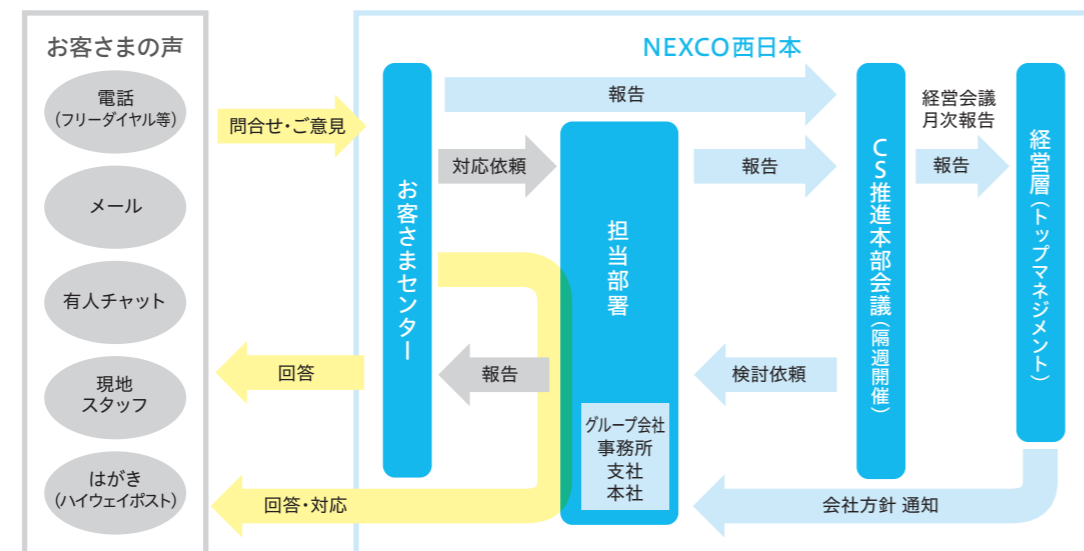
投資家説明会の様子

投資家説明会

毎年7月に投資家や金融機関の皆さまをはじめとした市場関係者を対象に事業説明会を開催し、当社の事業に対する理解を深めていただくよう努めています。また、質疑応答などを通じて、経営層と直接対話していただく機会とすることで、双方向コミュニケーションの場としても活用いただいています。



階段が暗いとお客さまの声を踏まえ、電灯を追加し、明るい階段に(名神高速道路 大津SA(下))



※はがき(ハイウェイポスト)は2024年9月30日をもって受付を終了します。

お問合せ先やご意見・ご要望を踏まえた改善事例



情報セキュリティ

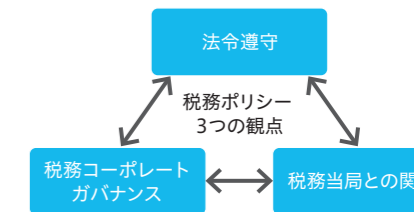
情報漏洩を「しない」「させない」企業風土と安全なIT環境を確立し、情報セキュリティに対する社員の意識向上を高めるため、ハード・ソフト面での対策を講じ、不正アクセス対策、ウイルス対策ならびにメールの誤送信対策を徹底しています。

また、従来グループ会社の一部では異なるIT基盤の構築と運用管理を行っていましたが、今後これを共通化し、セキュリティ強化と情報連携の円滑化を実現することで、更なるDX推進を目指します。

税務ポリシー

当社グループは、グループ理念や行動憲章に基づき適正な納税を行います。また、社会基盤を支える高速道路会社として良好な財務体質を維持するとともに、社会貢献の一つとして社会的責任を果たします。

私たちは、3つの観点に基づき、公正性や透明性を確保し、適切な会計・税務管理を実施していきます。



税務ポリシー



海外への展開

当社グループは、高速道路の建設・運営管理の経験により培った技術やノウハウを活かして、海外展開を進めています。本社と海外拠点が連携し、点検技術の外販や高速道路運営プロジェクト(PPP事業)*、コンサルティング事業等を行っています。

*PPP(Public Private Partnershipの略):官と民がパートナーを組んで事業を行う官民連携の形態

米国における事業展開

2011年、米国での橋梁点検業務参入を目的に、NEXCO-West USA, Inc. を設立しました。赤外線や画像診断技術を用いた構造物点検やコンサルティング事業を進めています。

USA社の赤外線点検技術がカリフォルニア州の道路構造物点検における標準仕様となるなど、日本の点検技術で米国のインフラ点検に貢献しています。

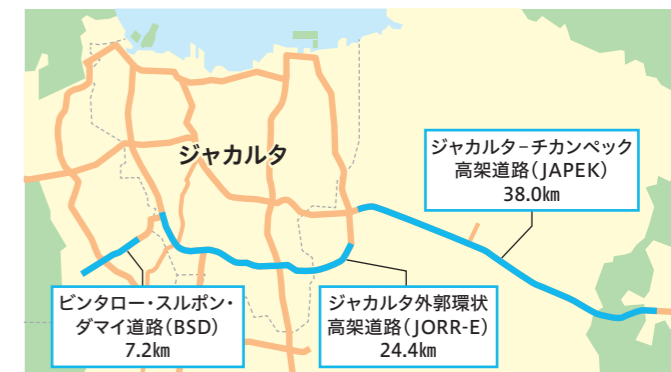


USA社赤外線技術による点検イメージ

インドネシア高速道路PPP事業へ参入

2011年に開設したインドネシア事務所を足掛かりに、現地企業2社の株式の一部取得し、日本の高速道路会社として初めて、インドネシア道路PPP事業に参入しました。

出資先会社が行っている新規建設事業・供用中道路の維持管理事業について、当社から出向している社員が技術的指導・支援を行っています。



出資先会社が参入している主な有料道路(インドネシア ジャカルタ近郊)



連結損益計算書

(単位: 億円)

区分	2023年度	2022年度	増減
営業収益			
高速道路事業	10,314	9,373	941
料金収入	7,613	7,296	316
道路資産完成高	2,659	2,050	609
その他	42	27	15
関連事業	456	397	58
SA・PA事業	311	269	42
その他の事業	144	127	16
計	10,770	9,770	1,000
営業費用			
高速道路事業	10,268	9,402	866
道路資産賃借料	5,406	5,158	248
道路資産完成原価	2,659	2,050	609
管理費用	2,202	2,193	8
関連事業	402	373	28
SA・PA事業	264	252	11
その他の事業	137	120	17
計	10,670	9,775	895
営業利益(損失▲)			
高速道路事業	46	▲28	74
関連事業	53	24	29
(うちSA・PA事業)	47	17	30
計	99	▲4	104
経常利益	132	16	116
当期純利益 ※1	106	3	102

※1 「当期純利益」には、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。
 ※2 億円未満は切り捨てて表示しています。

主要な経営指標等の推移

年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
営業収益 (億円)	10,870	9,309	13,296	9,770	10,770
経常利益又は経常損失(▲) (億円)	96	▲32	79	16	132
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(▲) (億円)	65	▲65	66	3	106
純資産額 (億円)	2,205	2,170	2,260	2,335	2,499
総資産額 (億円)	13,804	16,438	16,483	20,278	25,323
1株当たり純資産額 (円)	2,319.51	2,282.47	2,377.74	2,456.53	2,629.36
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額(▲) (円)	68.76	▲69.12	69.82	4.13	111.70
自己資本比率 (%)	16.0	13.2	13.7	11.5	9.9
自己資本利益率 (%)	3.0	—	3.0	0.2	4.4

(注) 1. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 令和2年3月31日)等を2021年度の期首から適用しており、2021年度以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標となっています。
 2. 2020年度の自己資本利益率については、親会社株主に帰属する当期純損失が計上されているため、記載していません。
 3. 億円未満は切り捨てて表示しています。

連結決算実績の解説

1. 高速道路事業

- 管内の高速道路の通行台数は、対前期2.8%増の301万台/日となり、料金収入は、対前期316億円(4.3%)増の7,613億円となりました。
 [新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和2年3月期と比較すると、通行台数及び料金収入は微増となっています。]
- 道路資産完成高は、松山道 東温スマートICの完成や京都縦貫道の移管などがあり、対前期609億円増の2,659億円となりました。
 なお、道路資産完成高は、道路建設にかかった経費と同額の債務を独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下「高速道路機構」といいます。)に引き渡すため、道路資産完成原価と同額となり、営業利益に影響しません。
- 高速道路機構に対する道路資産賃借料は、対前期248億円増の5,406億円となりました。
- 管理費用は、労務費や材料費の外注費が増加する中、雪氷対策費などの減少もあり、対前期8億円増の2,202億円にとどまりました。
- 高速道路事業の営業利益は、対前期74億円増の46億円となりました。

2. 関連事業

- SA・PAの飲食物販店舗売上高は、対前期130億円(15.3%)増の979億円となり、SA・PA事業の営業収益は、対前期42億円(15.7%)増の311億円となりました。
 [新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和2年3月期と比較すると、SA・PAの飲食物販店舗売上高は16億円(1.7%)の増となっています。]
- SA・PA事業の営業利益は、対前期30億円増の47億円、関連事業全体では対前期29億円増の53億円となりました。

3. 全事業

- 全事業営業利益は、対前期104億円増の99億円となりました。
- 当期純利益は、対前期102億円増の106億円となりました。



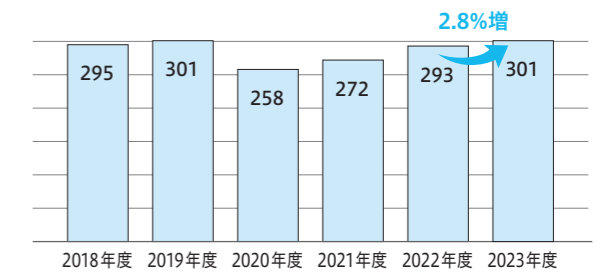
投資家の皆さまとの対話

当社は事業遂行に必要な資金の安定的かつ低利な調達に向けて、投資家の皆さまとの対話を重視しております。その中では事業内容の説明に加え、高速道路事業特有の仕組み・会計について、特に丁寧に説明を行っております。近年では金融機関・機関投資家のみならず自治体や事業会社といった様々な投資家の方からもお支えいただいております。引き続き丁寧な対話に努めてまいります。

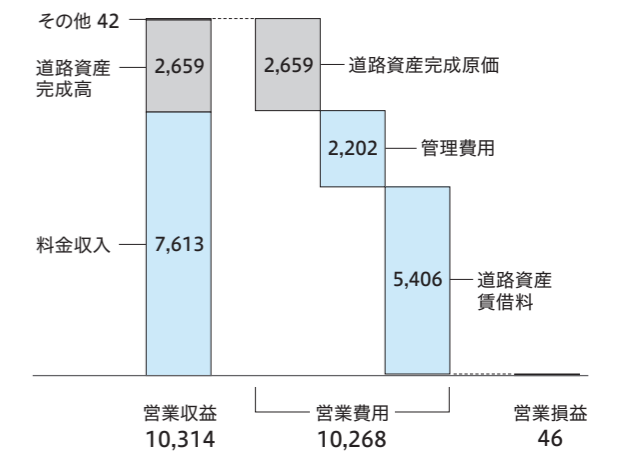


財務部 財務課 西尾 俊亮

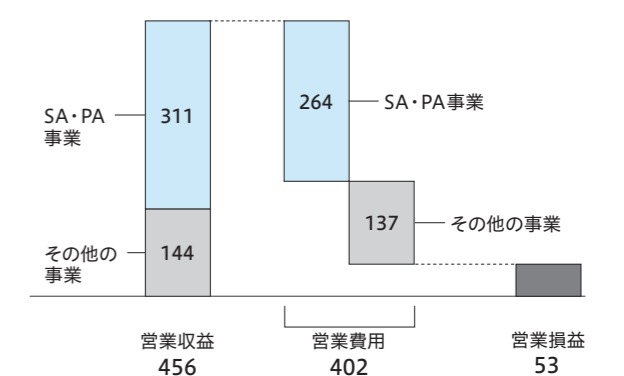
高速道路通行台数の推移 (単位: 万台/日)



高速道路事業の損益 (単位: 億円)



関連事業の損益 (単位: 億円)



※ 億円未満は切り捨てて表示しています。

IR情報



会社概要

会社概要



商号 西日本高速道路株式会社
(West Nippon Expressway Company Limited)
代表者 代表取締役社長 芝村 善治
本社所在地 大阪市北区堂島1丁目6番20号
資本金 475億円
設立年月日 2005年10月1日
従業員数※ (単体) 2,799人 (連結) 16,481人
※ 2024年5月末現在



TEAM NEXCO西日本



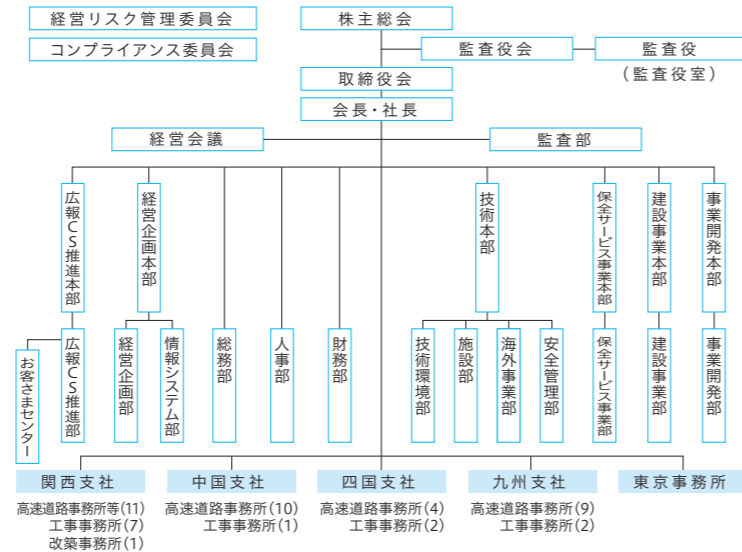
グループ会社

連結子会社 27社

- 料金収受
 - 西日本高速道路サービス関西株式会社
 - 西日本高速道路サービス中国株式会社
 - 西日本高速道路サービス四国株式会社
(※ 交通管理も実施)
 - 西日本高速道路サービス九州株式会社
 - 西日本高速道路総合サービス沖縄株式会社
(※ 交通管理、点検・管理、保安作業も実施)
- 交通管理
 - 西日本高速道路パトロール関西株式会社
 - 西日本高速道路パトロール中国株式会社
 - 西日本高速道路パトロール九州株式会社
- 点検・管理
 - 西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社
 - 西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社
 - 西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社
(※ 保安作業も実施)
 - 西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
 - 西日本高速道路ファンティーズ株式会社
(※ 保安作業も実施)
- 保安作業
 - 西日本高速道路メンテナンス関西株式会社
 - 西日本高速道路メンテナンス中国株式会社
 - 西日本高速道路メンテナンス九州株式会社
- 不動産関連業務及び人材派遣業務
 - 西日本高速道路ビジネスサポート株式会社
- SA・PAの運営・管理
 - 西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社
 - 西日本高速道路ロジスティクス株式会社
 - 西日本高速道路リテール株式会社
- 一般自動車事業
 - 芦有ドライブウェイ株式会社
- 海外事業
 - NEXCO-West USA, Inc.

NEXCO西日本 組織図

組織図



グループ会社



- 橋梁補修技術の開発及び工事・コンサルタント・調査等事業
 - 株式会社富士技建
 - NEXCO西日本コンサルタンツ株式会社
 - NEXCO西日本イノベーションズ株式会社
- 維持管理システム・ITインフラ等業務
 - NEXCO西日本情報テクノロジー株式会社
- 広告事業
 - NEXCO西日本コミュニケーションズ株式会社
- 持分法適用の子会社 1社
 - SA・PAの運営・管理
沖縄道路サービス株式会社

関連会社 6社

- システムの開発・改良及び運用管理
 - 株式会社NEXCOシステムソリューションズ
- 研究及び技術開発
 - 株式会社高速道路総合技術研究所
- 料金収受機械等保守整備業務及び料金収入計数管理業務等
 - 高速道路ツールテクノロジー株式会社
- 保険代理業務
 - 株式会社NEXCO保険サービス
- トラックターミナルの運営
 - 九州高速道路ターミナル株式会社
- 海外事業
 - 日本高速道路インターナショナル株式会社

事業エリア(24府県)

事業エリア



高速道路事業

営業中道路 3,603km
IC数 IC 474カ所 うち、スマートIC 39カ所
利用台数 301万台/日 (2023年度実績)
営業収入 7,613億円 (2023年度実績)
建設中道路 新設区間56km
6車線化及び4車線化区間192km※
※道路整備特別措置法第3条に基づく改築事業に限る

SA・PA事業

サービスエリア 100 (94)カ所
パーキングエリア 213 (98)カ所
売上高 1,742億円 (2023年度実績)
※上下線各1カ所でカウントしたエリアの数
※()内は、第三セクターの運営を除いた
有人の営業施設の数



高速道路凡例

- 営業中
- 新設・改築事業中*
- NEXCO西日本グループが管理するその他の道路
- 他の道路管理者が管理する道路

※ 事業中のインターチェンジ等の名称は仮称
※ 一部6車線化及び4車線化事業を含み表示している
標記上の略称
SA:サービスエリア PA:パーキングエリア
JCT:ジャンクション S:スマートインターチェンジ

(2024年6月現在)

NEXCO西日本グループのあゆみ

NEXCO西日本は2005年に設立されました。
前身の日本道路公団を含めると60年を超える歴史になり、
私たちは半世紀以上にわたって、24時間365日、我が国の大動脈として
生活・経済活動に欠かせない重要インフラである
高速道路の機能・サービスを間断なく提供する使命を担っています。

1956— 2004

1956 日本道路公団発足



1963 日本初の高速道路 名神高速道路 (栗東IC～尼崎IC間) 開通



1965 名神高速道路 全線開通

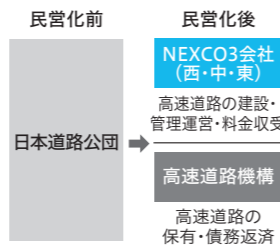
1991 ロゴマークの導入



2001 ETCの運用開始

2005— 2010

2005 10月 日本道路公団の分割・民営化により西日本高速道路(株)設立



2006 4月 ブランドネーム、ロゴマーク決定



2007 11月 阪和自動車道 全線開通

2008 2月 新名神高速道路 (亀山JCT～草津田上IC) 開通



2008 11月 ハイウェイ交通情報提供『iHighway』サービス開始



2010 3月 第二京阪道路 全線開通



1995 1月 阪神・淡路大震災



2011— 2015

2013 4月 京都縦貫自動車道 (沓掛IC～大山崎JCT・IC間) 開通

2014 5月 道路整備特別措置法等改正 (高速道路リニューアルプロジェクトのため料金徴収期限を延長)

7月 舞鶴若狭自動車道 全線開通

2015 3月 徳島自動車道 (鳴門JCT～徳島IC間) 開通

6月 茨木技術研修センター「I-TR(アイトレ)」開設

2011 3月 東日本大震災



2012 12月 中央道笹子トンネル 天井板崩落事故発生



2016— 2020

2016 4月 東九州自動車道(椎田南IC～豊前IC)開通 北九州市から宮崎市が直結



2018 3月 新名神高速道路 (高槻JCT・IC～神戸JCT)が全て開通 宝塚北SAオープン



2020 中国自動車道(吹田JCT～神戸JCT)のリニューアル工事を開始



2016 4月 熊本地震



4月 新名神高速道路有馬川橋 橋桁落下事故発生



2018 7月 平成30年7月豪雨 (37道路、2,299kmが通行止め)



9月 台風21号 (関西国際空港連絡橋 タンカー船衝突)



2021—

2022 3月 播磨自動車道(播磨新宮IC～中央JCT)開通



徳島南部自動車道(徳島JCT～徳島沖洲IC)開通



2023 5月 道路整備特別措置法等改正 (高速道路の更新・進化のため料金徴収期限を延長)

2020～ 新型コロナウイルス感染症の蔓延



CSRの重要課題（マテリアリティ）と取り組み状況

当社グループでは、「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」というCSR活動方針のもと、ステークホルダーとの対話で得られたご意見を参考にしながら、CSRの重要課題を特定しています。

また、2030年に向けて世界的な優先課題やあるべき姿を明らかにしている「持続可能な開発目標（SDGs）」に、当社グループのマテリアリティを中心とする関連した取り組みを通じて貢献することを目指しています。

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）






















2015年9月、国連サミットにて「持続可能な開発目標（SDGs）」が全会一致で採択されました。2030年までに達成すべく、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動等に関する17のゴールが宣言されています。



重要課題	ステークホルダー 参画の機会(参加者)	重要である理由	KPI(マネジメントアプローチ)				集計範囲	関連するSDGs	関連ページ		
			管理のポイント・指標	2023年度目標	2023年度実績	2024年度目標					
 お客さま	●お客さまセンター (高速道路利用者) ●SA・PAに設置した利用者向け投書コーナー「ハイウェイポスト」 (高速道路利用者) ●SA・PAインフォメーション(高速道路利用者) ●現場責任者会議等(SA・PAテナント会社) ●包括協定、連携協定(各地域の地方公共団体)	高速道路での交通事故は、死傷事故など重大な事故につながります。	死傷事故率※1(自動車走行車両1億台kmあたりの死傷事故件数)	4.0件/億台km	4.0件/億台km	3.8件/億台km	NEXCO西日本事業エリアの全国路線網	 3 すべての人に健康と福祉を	19ページ		
			車限令違反車両取締台数(高速道路上で実施した車限令違反車両取締における措置命令台数)	—	338台	—			14ページ		
			逆走事案件数※1(交通事故または車両確保に至った逆走事案件の件数)	—	90件	—			20ページ		
			人等の立入事案件数(歩行者、自転車、原動機付自転車等が高速道路に立入り、保護した事案件の件数)	770件	814件	730件			—		
			顧客満足度(CS調査で把握する維持管理に関するお客さまの満足度(5段階評価))	3.7ポイント	3.7ポイント	3.7ポイント			49ページ		
	●SA・PAインフォメーション(高速道路利用者) ●現場責任者会議等(SA・PAテナント会社) ●包括協定、連携協定(各地域の地方公共団体)	高速道路の円滑な交通を24時間365日確保することによって、国民生活を豊かにし、経済活動を支えることが、当社の責務です。	年間利用台数	1,062百万台	1,095百万台	1,082百万台		NEXCO西日本事業エリアの全国路線網	 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	7,52ページ	
			通行止め時間(営業延長(上下線別)あたりの雨、雪、事故、工事等に伴う年平均通行止め時間)	—	71時間	—				12-22ページ	
			本線渋滞損失時間※1(渋滞が発生することによるお客さまの年間損失時間)	583万台・時	683万台・時	573万台・時				20ページ	
			路上工事による交通規制時間※1(道路1kmあたりの路上作業に伴う交通規制時間)	—	127時間/km	—				12-18ページ 23-29ページ	
			ベビーコーナー設置箇所数	—	2カ所(累計108カ所)	—				34ページ	
 社会	●事業説明会(地域住民) ●設計協議(地域住民)	高速道路ネットワークは、国民生活を豊かにし、経済活動を支える、基礎的な社会資本です。また、輸送コストの削減や交通事故の減少にも貢献しています。	新規開通路線延長	—	—	—	NEXCO西日本事業エリア	 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	 11 住み続けられるまちづくりを	23-26ページ	
			4車線化完成路線延長 ※道路整備特別措置法第3条に基づく改築事業に限る	—	—	5.7km				23,27,28ページ	
	●お客さまセンター(高速道路利用者) ●SA・PAに設置した利用者向け投書コーナー「ハイウェイポスト」(高速道路利用者)	管理する道路の多くが建設から30年以上を経過し、補修を必要とする道路構造物が増加しています。	快適走行路面率(快適に走行できる舗装路面の車線延長)	98%	97%	98%		NEXCO西日本事業エリア	 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	11-16, 44,46ページ	
			南海トラフ地震等における被害に備えた防災備蓄品の新規備蓄箇所	2カ所 累計 248カ所	2カ所 累計 248カ所	(2023年度で供用中路線の備蓄整備完了) 累計 248カ所				12,17,18ページ	
	●包括協定、災害協力協定・連携協定(当社事業エリアの各府県・政令指定都市、陸上自衛隊)	災害発生時、高速道路には、被災地域の救急・復旧・復興のインフラとしての役割が求められています。	地域物産展実施エリア	—	42カ所	—		NEXCO西日本事業エリア	 8 働きがいも経済成長も	 17 パートナリシップで目標を達成しよう	35,36ページ
			地元が販売・イベント等によりSA・PAを利用した日数	のべ3,683日	のべ3,625日	のべ3,663日					35-38ページ
			ウェルカムゲート(一般道からSA・PAに立ち寄れるゲート)新規設置数	—	3カ所(累計83カ所)	—					34ページ
	●包括協定、連携協定(各地域の地方公共団体)	人口減少時代を迎え、沿線地域の活性化への貢献が求められています。	地域振興や観光振興を目的とした企画割引等の販売件数	322千件	301千件	350千件		NEXCO西日本グループ	 16 平和と公正をすべての人に	31,32ページ	
			高速道路機構の債務削減	8ページの「高速道路機構の債務残高」をご覧ください。						(旧道路関係4公団)	8ページ
			社長定例会見、記者交流会の開催	16回	16回	16回				NEXCO西日本	 16 平和と公正をすべての人に
Facebookを活用した広報展開(NEXCO西日本公式Facebook登録者数の増)	登録者数 30,000人	登録者数 29,300人	登録者数 30,000人	裏表紙							
 投資家・国民の皆さま	●事業説明会(機関投資家) ●個別投資家訪問(機関投資家) ●記者会見、記者交流会(マスメディア) ●アンケート調査(NEXCO西日本グループレポート読者)	CSR報告書での企業活動報告	1回	1回	1回	NEXCO西日本グループ	 16 平和と公正をすべての人に	1ページ			

※1 集計期間：2023年1月1日～12月31日(他は2023年度実績)

CSRの重要課題（マテリアリティ）と取り組み状況

重要課題	ステークホルダー 参画の機会(参加者)	重要である理由	KPI(マネジメントアプローチ)		KPI(マネジメントアプローチ)				関連するSDGs	関連ページ	
			管理のポイント・指標	2023年度目標	2023年度実績	2024年度目標	集計範囲				
 <p>公正な取引関係</p>	● 入札監視委員会 (外部有識者)	国民の財産である高速道路の建設・管理を担う会社として、公共調達に係る契約の透明性の確保が求められています。	入札監視委員会の実施回数	—	8回 (各支社2回)	—	NEXCO西日本		48ページ		
	● 現場責任者会議等 (SA・PAテナント会社)	お客様の多様なニーズに応えるため、SA・PAのお取引先さまとの協働を重視しています。	安全・安心にかかる講習等 誤給油防止訓練	—	年3回	—	飲食物販テナント事業者 元売テナント事業者等		—		
 <p>「安全・安心、信頼され成長する企業グループ」を担う人財の育成</p>	● キャリア相談窓口 (NEXCO西日本社員) ● 経営懇談会、労使協議会 (NEXCO西日本労働組合員) ● 外部講師による研修 (グループ社員)	安全・安心を最優先に、高速道路の進化に挑み続けるため、一人ひとりが仕事を通じて自律的に成長していける人財育成と、組織・会社の自己変革が重要だと考えています。	階層・職種別研修 資格取得支援制度の利用者数 女性管理職者比率 ※2023年度に算出方法を見直し 男性労働者の育児休業取得率 新規採用に占める女性の割合	—	のべ 1,006回	—	NEXCO西日本グループ NEXCO西日本 NEXCO西日本 NEXCO西日本 NEXCO西日本	  	39-42ページ 39-42ページ 39-42ページ 39-42ページ 39-42ページ		
	 <p>脱炭素社会の実現</p>	● 各種の対話の機会を通じた環境コミュニケーション(お客様、地域住民、従業員、専門家)	高速道路では、自動車から大量のCO ₂ が排出されるため、道路運営全体で、その排出量削減が求められています。	● 環境アクションプラン ● 省エネルギー活動	道路施設の維持管理に要する電気使用量	2020年度実績より3.0%以上削減する	7.6%削減	2020年度実績より4.0%以上削減する	NEXCO西日本事業エリア	 	43-46ページ
				● 環境アクションプラン ● 環境物品等の調達の推進	新設料金所等に太陽光発電を設置する	累計20kW	累計20kW	累計20kW	NEXCO西日本事業エリア	43-46ページ	
				● 環境アクションプラン ● エコロード(自然に優しい道路づくり)の推進 ● 周辺の生活環境への影響を減らす道路づくり	次世代車両用スタンド整備に向けた新エネルギー補充用技術を開発する	電気自動車用急速充電設備を新たに40口増設する	電気自動車用急速充電設備を23口整備完了	電気自動車用急速充電設備を新たに85口増設する	NEXCO西日本事業エリアのSA・PA		43-46ページ
				● 環境アクションプラン ● 環境物品等の調達の推進	事務用品における特定調達物品等の調達率	100%	100% (規格等により適合商品がない場合を除く)	100%	NEXCO西日本	43,44,46ページ	
 <p>循環型社会の形成</p>	● 各種の対話の機会を通じた環境コミュニケーション(お客様、地域住民、従業員、専門家)	高速道路の建設では、大量の建設副産物が発生するため、その削減が求められています。	● 環境アクションプラン ● 環境物品等の調達の推進	植物系廃棄物(草刈等)の有効活用率	97%以上	99.1%	97%以上	NEXCO西日本事業エリア		43,44,46ページ	
			● 環境アクションプラン ● エコロード(自然に優しい道路づくり)の推進 ● 周辺の生活環境への影響を減らす道路づくり	建設発生土の再利用率	80%以上	95.1%	80%以上	NEXCO西日本事業エリア	43,44,46ページ		
			● 環境アクションプラン ● エコロード(自然に優しい道路づくり)の推進 ● 周辺の生活環境への影響を減らす道路づくり	アスファルトコンクリート塊のリサイクル率	99%以上	100%	99%以上	NEXCO西日本事業エリア	43,44,46ページ		
			● 環境アクションプラン ● エコロード(自然に優しい道路づくり)の推進 ● 周辺の生活環境への影響を減らす道路づくり	コンクリート塊のリサイクル率	99%以上	100%	99%以上	NEXCO西日本事業エリア	43,44,46ページ		
 <p>自然と共生する社会の推進</p>	● 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) ● 鶴殿ヨシ原の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) その他、必要に応じて外部委員会を設置	高速道路の建設では、沿道地域の自然環境に影響を及ぼすため、その影響の緩和が重要になります。また、沿道地域の生活環境を守るため、道路交通による騒音の低減が求められています。	● 環境アクションプラン ● エコロード(自然に優しい道路づくり)の推進 ● 周辺の生活環境への影響を減らす道路づくり	動物侵入防止対策の設置・改良箇所	14km	12km	5km	NEXCO西日本事業エリア	 	43,44,46ページ	
	● 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) ● 鶴殿ヨシ原の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) その他、必要に応じて外部委員会を設置	高速道路の建設では、沿道地域の自然環境に影響を及ぼすため、その影響の緩和が重要になります。また、沿道地域の生活環境を守るため、道路交通による騒音の低減が求められています。	● 環境アクションプラン ● エコロード(自然に優しい道路づくり)の推進 ● 周辺の生活環境への影響を減らす道路づくり	遮音壁の設置(設置延長)	累計1.4km	累計1.4km	累計2.0km	NEXCO西日本事業エリア	 	43,44,46ページ	
 <p>「安全」「環境」「地域貢献」の取り組み</p>	● 高速道路交通警察隊(当社事業エリアの各府県) ● 高速道路安全協議会(当社事業エリアの各府県) ● 包括協定・連携協定(各地域の地方公共団体)	社会インフラを管理する公共性の高い企業として、地域社会への貢献が求められています。	交通安全出張講座	—	のべ107回	—	NEXCO西日本グループ	 	19ページ		
			職場周辺や各地域での清掃活動	—	のべ1,226回 9,527人	—	—	—	—		
			つなぎの森活動	—	3カ所	—	—	NEXCO西日本管内	44ページ		